

平成24年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

【 総 括 】

平成24年度は、「財団法人 横浜市青少年育成協会」から「公益財団法人 よこはまユース」へと移行し、新しい事業の柱に基づき青少年育成に取り組む2年目の年でした。

社会的に青少年を取り巻く環境が厳しさを増すなか、青少年が成長過程で遭遇する様々な困難や課題に向き合う能力や、潜在的なリスク・社会構造的ひずみ等への耐性を培う環境づくり、及び困難な状況を抱えた場合の立直りを支援するセーフティーネット※1がより重要になっています。

当法人は、横浜市の青少年施策における重要課題を法人の重要課題と位置づけ、これまでの取り組みに加え、青少年施策に基づく事業の獲得に挑戦しました。具体的には「困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業」と「地域ユースプラザ」の運営法人に応募し、西区の困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営法人になりました。

これらの挑戦を含め次の目標のもと経営に取り組みました。

（目標）

- 1 すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりのなかで成長していくことができる社会を醸成するとともに、潜在的なリスクを抱える青少年を支えるセーフティーネットとしての機能を地域に確立します。
- 2 様々な体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することによって、未来を担う青少年の成長に貢献します。
- 3 不登校やひきこもり状態にある青少年や若年無業者を対象とする「自立支援」に取り組めます。
- 4 すべての子ども、若者の潜在的リスク予防とリスクの解消・軽減に取り組み、耐性力を育成します。
- 5 法人としての経営・組織基盤を強化します。

（事業の柱と公益目的事業区分）

当法人の目的『すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりのなかで成長していくことができる社会を醸成するとともに、様々な体験を通じ青少年自らが学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与する』を具現化する事業の柱と事業区分は次の通りです。

【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談助言
- お：調査、資料収集

A：青少年活動を支援する事業

あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われている青少年を対象とした多様な事業を企画、実施するための指導者・育成者による打合せや準備、実際の活動の場として施設を提供しました。施設の提供にあたっては、学校や普段の生活では体験しにくい青少年が主体的に関わることができる体験活動や集団宿泊体験等の場として利用できるよう、できる限り利用に関する制限を設けず提供するとともに、活動相談や情報提供による支援を併せて行いました。

なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しました。

【主な事業・取組】

- 青少年の指導者・育成者の活動拠点 横浜市青少年育成センターの諸室及び物品貸出
- 青少年の主体的な活動拠点 横浜市青少年交流センターの諸室及び物品貸出
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点 横浜市野島青少年研修センターの諸室及び物品貸出

え：相談助言

この事業は、青少年と大人がともに育つ環境を醸成することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われている体験活動をはじめとする多様な事業に青少年が関わることにより、自らが学び育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談・助言、情報提供、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のコーディネートやプランニング等、多様な支援を行いました。

【主な事業・取組】

- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座《本部》
子ども・若者を取り巻く課題(携帯・ネット・性非行・深夜はいかい等)を周知し、その解決に向けた取組みを促すため、地域で開催される講座に有識者を講師として派遣しました。
また、地域が抱える課題を集約し、地域や団体の啓発活動の推進を図りました。
- 青少年の地域活動拠点の推進・支援事業（鶴見・神奈川・磯子区3拠点の支援）《本部》
青少年の地域活動拠点の運営団体に居場所づくりのノウハウを提供するとともに、利用者向上に向けたPR活動を行い、市内の青少年地域活動拠点の運営を支援しました。
- 地域カスステップアップ事業（相談、助言、活動プランニング等）《本部》
地域・企業など幅広い対象からの相談に応じ、研修や地域活動のプランニングやコーディネート、講師派遣などのアウトリーチによる支援によって地域事業を充実すると共に、青少年育成への理解を深め、青少年問題に対応する地域力を育てました。
- 青少年育成に関する相談、情報の収集と提供《育成C》
- よこはまの青少年の体験活動に関する懇話会《育成C》
- 青少年に対する活動相談・ロビーワーク※2による日常的な相談、助言《交流C》

お：調査、資料収集

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。

横浜市内で行われているNPOや企業のCSR※3活動が青少年育成活動や学校の体験学習と連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会が充実することを目的に、横浜市内の活動を調査し情報をホームページに掲載しました。

また、体験活動に参加し難い、課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用できる情報の収集やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。

【主な事業・取組】

- 市内の活動資源調査《本部》
- 自然・社会体験活動プログラムの開発及び体験機会の提供《本部》
青少年のコミュニケーション能力向上と人間性・社会性の形成を図るため、地域団体との連携による自然環境や社会資源を活用した体験活動を実施するとともに、新たな活動プログラムを開発・実施しました。
- 早期支援SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング※4）プログラムの開発《本部》

B：青少年を支える人材を育成する事業

い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年を支える人材や活動の核となる青少年を養成することで、青少年と大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を推進し、青少年が自ら学び育つことができる機会の充実や自立支援に関わる人材を育成しました。

具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しました。

【主な事業・取組】

- 子ども・若者エンパワーメント※5セミナー《本部》
思春期の子をもつ親や自立支援に関心をもつ市民が、子どもたちが抱えている悩みや課題について正しい知識を持ち、適切に子どもたちと向き合い成長を見守ることができるよう、子ども・若者へのエンパワーメントをキーワードにセミナーを実施しました。
- 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修《育成C》
青少年の課題が複雑になるにつれ、“支援”が機能別・個別化（ひきこもり・就労・発達上の課題等）されていく傾向が懸念されるなか、地域における青少年との日常的な関わりを通し包括的に青少年を支える地域人材の育成を目的とした研修・講座を実施しました。
- 高校生世代を対象としたキャリア観の醸成（潜在的なリスクを抱える層へのアプローチ）《育成C》
- シンポジウム「子ども・若者を支える地域を目指して」《育成C》
- 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム《交流C》

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の成長に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験、集団宿泊体験等の事業を企画・実施しました。

具体的には、お互いに協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象とした体験活動を実施するとともに、活動プログラムの開発に取り組みました。

併せて、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供するため放課後キッズクラブを運営しました。

【主な事業・取組】

- 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営《本部》

生活上の課題を抱えているにも関わらず、既存の福祉制度等だけでは十分な支援を受けられない小中学生に対して、生活支援・学習支援・総合支援を行いました。
- 学習マイプラン（学習支援）《本部、交流C連携》

学校の教育課程からふるい落とされることがないように、生活困窮家庭の子ども（小中学生）を中心に、毎週定期的に学習を支援し学習意欲を高め、将来に対する意欲を涵養しました。

また、交流センターを実施場所とすることで、学習支援の他、自分の興味を具現化する過程に寄り添う大人や青年等に出会う機会も提供しました。
- 早期支援SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）プログラム事業《本部》

横浜市内の寄り添い型支援事業参加者（小中学生）を対象に、規範意識を持ち、他者を思いやるなど豊かな人間性を育み、集団生活や集団行動を通じて社会のルールや自ら考え行動する力を身につける機会を提供することを目的に集団宿泊体験プログラムを実施しました。

この事業を通じて、青少年を支援する人材育成、青少年支援機関・団体学校等とのネットワークの充実を図り、困難を抱える青少年の早期発見・早期支援の仕組みづくりに活かします。

また、事業の検証結果をもとに新しい健全育成事業の開発・構築に結び付けます。
- 新規体験プログラムの開発《本部、研修C連携》

野島青少年研修センター及び周辺の自然環境を活用し、グループでアドベンチャー（冒険）に挑戦し問題解決能力や思考能力、想像力を発揮する体験を通じて、仲間や自分自身と向き合い成長していけるプログラムを開発し、一部のプログラムを試行しました。（海洋プログラム、グループワークプログラム、自然学習プログラム）
- 高校生水源林ボランティア《本部》
- 野島クリスマスキャンプ事業《研修C》
- ハートフルスペース宿泊体験《研修C》
- 青少年交流センター・野島青少年研修センターが企画実施する多様な体験事業
- 放課後キッズクラブの運営

横浜市と連携を図りながら、「子どもたちの放課後懇話会」の提言を踏まえ、すべての子ども達を視野にいれ、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を運営しました。

D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

Dの項目は、収益事業及び法人運営のための取組です。

1 寄附金募集事業

当法人の取組を広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、収益事業(寄席)の実施、募金箱の設置、寄附金の継続協力者の拡充のための事業(情報紙発行、新春のつどい)を行いました。

【主な事業・取組】

- 爆笑！濱っ子寄席の開催／募金箱の設置／寄附金継続協力者の拡充
- 寄附金募集、及び賛助会員制度導入に向けた準備

2 事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の育成、ガバナンスの強化推進に努めました。

【主な事業・取組】

- 評議員会、理事会の運営
- 法人経営方針策定 (H25～H29)
- 職員研修の実施
- 事業評価システム本格導入
- 情報受発信の充実 (ホームページ充実、活動情報紙「ユースレター」発行等)

《注釈》

※1:セーフティーネット(safety net)

「安全網」と訳され、網の目のように救済策を張ることで、安全や安心を提供するための仕組みのこと。

※2:ロビーワーク

ロビー(フリースペース)に集まる利用者たちと施設スタッフとの関わり合いや、そこで行われる様々な事業を総称してロビーワークと呼ぶ。

※3:CSR(corporate social responsibility)

「企業の社会的責任」と訳され、企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持ち、社会全体からの要求に対して適切な意思決定をすること。

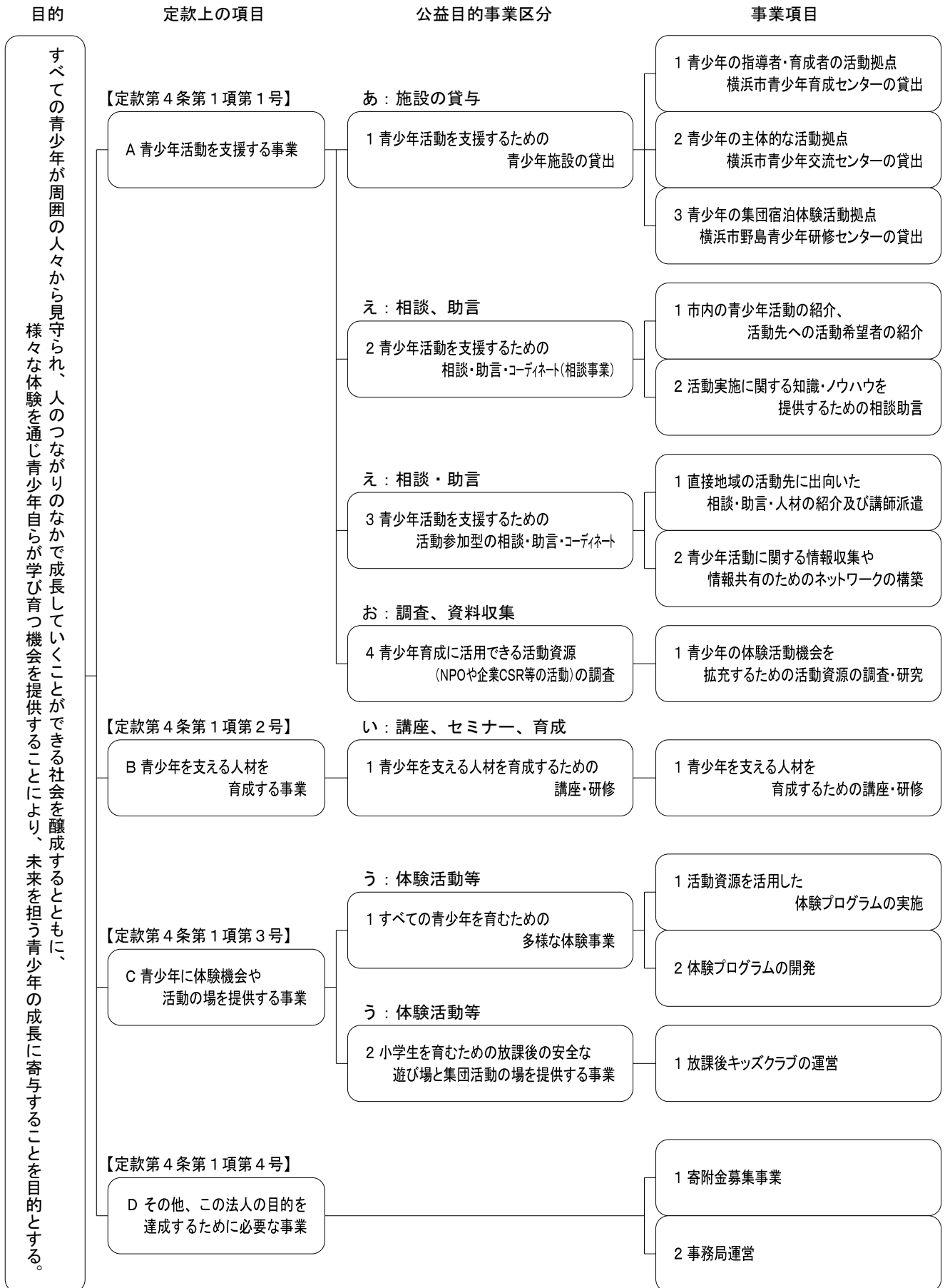
※4:ソーシャル・スキルズ・トレーニング(social skills training)

カリフォルニア大学ロサンゼルス校の医学部精神科のロバート・リーマン教授が考案したもので、対人関係をうまく保ち、社会で適応するための技術を向上させることにより困難さを解決しようとする技法。「社会生活技能訓練」、「生活技能訓練」、「社会的スキル訓練」等とも呼ばれる。

※5:エンパワメント(empowerment)

本来持っている力を発揮し、自己決定力をもてるよう働きかけること。

【平成24年度 公益財団法人よこはまユース事業体系図】



事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的事業区分	え: 相談、助言
事業区分	A-Ⅲ 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート			
事業名	知っておきたい！子ども・若者どこでも講座			
日時/回数	6月～3月	場所	横浜市内	
対象	横浜市内在住、在勤、在学の市民・団体	回数	36件(30人以上/件)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人が青少年を取り巻く状況や課題についての理解を深める。 ・様々な課題を抱える子ども・若者を支援していける環境整備につなげる。 			
実施内容	地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。 横浜市子ども・若者支援協議会の委員を中心とした学識経験者、医療関係者、行政専門職員等を講師として派遣した。	<ul style="list-style-type: none"> ・受付期間: 6/1(金)～2/28(木) ・実施期間: 7/2(月)～3/29(金) ・依頼内容に則した講師の選定・紹介 ・講演会・研修会の企画・内容に対する助言・相談 ・講演会当日の運営補助 ・講座記録の作成と報告 <テーマ区分> 子どもとの関わり方/青少年の居場所/インターネット・携帯電話/性教育/非行の問題/薬物の問題/若者の自立支援/心の教育/自殺の問題 他		
事業名	青少年の地域活動拠点の推進・支援事業(鶴見区・神奈川区・磯子区 3拠点の支援)			
日時/回数	毎週(鶴)火、(神)月、火、金、(磯)月、火、木、金	場所	生麦地区センター、神大寺地区センター、岡村中学校区	
対象	活動拠点スタッフ、関係者、各区の地域振興課	参加者	22,527人(3拠点の利用者の合計)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・設備や資金面そして運営においての支援が充分でない状況にある小規模拠点の運営を支援する。 ・法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進する。 ・地域の居場所づくりの取り組みを支援する。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金交付にかかる事務調整 ・利用者増に向けたPR支援 ・拠点間の連絡調整 ・居場所の運営支援と活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の地域活動拠点の推進・支援事業経費交付要綱等の作成 ・事業経費の定期交付 ・利用者増に向けた広報物の作成 ・拠点スタッフのスキルアップを図る研修等の支援 ・拠点スタッフ会議への参加 ・活動報告書の作成および評価 ・拠点活動の運営補助、助言、相談 【連携】 市こども青少年局青少年育成課、鶴見区地域振興課、神奈川区地域振興課、神大寺地区センター、地域型スポーツクラブ「まるクラブ」、磯子区地域振興課、岡村中学校		
事業名	地域カステップアップ事業(相談、助言、プランニング)			
日時/回数	通年	場所	横浜市内	
対象	行政、学校、PTA、団体や機関など	対応	27活動	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における青少年活動や居場所づくり活動の充実・発展を図る。 ・青少年育成活動を通じ地域活動を活性化する。 ・学校と地域の連携事業を通じ、地域のセーフティーネットの構築を図る。 ・企業の社会貢献活動を推進し、地域活動と結びつけることで地域力の向上を図る。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の青少年活動のコーディネート ・活動のプランニング ・青少年活動の相談、助言 ・青少年活動に関する研修や講師派遣 ・社会貢献活動のコーディネート 	<活動コーディネート> ①十日市場中学校地域交流事業 ②はまっこ・どうしキャンプの運営支援 ③居場所勉強会 ④オルタボイスキャンプ ⑤神大寺地区学習支援事業 ⑥ガールスカウト研修会 ⑦科学体験活動推進スタッフ養成研修 <相談・助言> ①ユースポータル横濱の若者支援活動(ネットカフェ、農業体験、宿泊体験等) ②相談センター学習支援の展開 ③金沢区青少年健全育成活動の相談 ④水道局「WATER HERO」事業相談 ⑤バイターン活動の推進 <講師派遣> ・全13件(金沢区保育ボランティア、子どもの幸せを実現する会ほか) <社会貢献活動> ・キリンビール社員社会貢献活動実習研修 ・SMBCファイナンス社会貢献活動		

事業名	ユースサポーター事業		
日時/回数	3/14(木)、20(水・祝)、27(水)/3回	場所	横浜市青少年育成センター 他
対象	青少年活動に携わる青少年・若者、関心のある市民	参加者	35人(3回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の次代を担う若手リーダー等の意識や意欲を向上する。 ・新しい視点や考えを学ぶことで、これまで会得した知識や考えをブラッシュアップする。 ・団体の運営課題や地域課題を解決に導く“ヒント”を得る。 ・若手リーダーの横の繋がりを工夫することでお互いの活動を広げる。 		
実施内容	<p>将来の青少年育成・支援者の拡大を目指し、実践経験のある次代リーダーの青少年・若者に対して、青少年課題に関する研修等を実施した。</p> <p>今年度はカリキュラム内容の試行的実施と位置づけ、検討委員会による内容を精査し、コミュニケーションをテーマとした研修を複数回実施した。</p> <p>実施:3/14(木)19時~21時(16人) 20(水・祝)14時~16時(10人) 27(水)19時~21時(9人)</p> <p>参加総数:35人 対象:少年団体、プレイパーク、青少年委員など青少年育成に関わる青少年・若者 内容:コミュニケーションをテーマに「考えを伝える・受け止める」/「問題解決のアプローチ」/「効果的な提案の方法」を実施</p> <p>※少年団体、関係機関から検討委員3人を選定し、委員会を設置(4回開催)し、カリキュラム内容について検討・企画した。</p> <p>講師:有限会社以心伝心 代表取締役 安海将広(あづみまさひろ)氏 検討委員:ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会の中堅リーダー(3人)</p>		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	お: 調査、資料収集
事業区分	A-IV 青少年育成に活用できる資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査		事業区分	
事業名	活動資源の調査			
日時/回数	1月~3月	場所	横浜市内	
対象	青少年団体や活動場所・施設 他	調査数	54か所	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年活動に活用できる多様な地域資源を調査し、情報提供することで体験活動の推進を図る。 ・調査を通して地域資源を掘り起こし、地域の青少年活動に繋げ、活動の活性化を図る。 			
実施内容	<p>地域の活動事例や活動資源を調査し、法人ホームページのユースマップにより発信した。</p> <p>【調査】 ・54か所(団体)の活動事例、活動資源を調査</p> <p>【情報提供】 ・法人ホームページ(ユースマップ)で情報提供</p>			
事業名	自然・社会体験プログラムの開発			
日時/回数	11/22(木)~3/26(火)/委員会6回	場所	主に青少年育成センター	
対象	青少年団体の若手リーダー 他	委員	6人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・青少年のコミュニケーション能力向上、社会性や人間性を育む体験活動プログラムを開発する。 ・市内の自然環境や社会資源の活用方法について提案する。 ・所属を越えた若手リーダーのコミュニケーションを深めることで、団体相互のネットワークの強化を図る。 			
実施内容	<p>横浜の自然環境や社会資源を活用し、青少年のコミュニケーション能力向上、社会性や人間性の形成を図る体験活動プログラムを開発した。</p> <p>金沢動物園で実施の自然体験プログラム大会「野遊びパーク2013」のプログラムとして、開発プログラム「保護動物ポイントラリー」を試行した。</p> <p>協力: 金沢動物園</p> <p>・少年団体の若手リーダーを中心とした委員会を発足(11月) ・開発会議(全5回)と開発プログラム試行(1回)の実施 第1回:11/22(木) 第2回:1/17(木) 第3回:2/4(月) 第4回:3/4(月) 開発プログラム試行:3/9(土) 於:野遊びパーク2013会場 第5回:3/26(火)</p> <p>【連携】 ボーイスカウト横浜市連合会、横浜市健民少年団、横浜市子ども会連絡協議会、ガールスカウト横浜市連絡協議会の若手・中堅リーダー ※オブザーバーとして、横浜市野島青少年研修センター職員も参加</p>			
事業名	早期支援SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)プログラム開発			
日時/回数	11月~3月			
対象	横浜市内の自立支援に取り組む機関・団体			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱える子ども・若者への早期支援プログラムとしてSSTの要素を取り入れたプログラムを開発する。 ・法人の持つノウハウや体験活動資源をプログラムに活用できるか検証する。 			
実施内容	<p>【当初計画】 SSTプログラムの開発 ↓ 体験活動、合宿・通所訓練、カウンセリングを含むSSTプログラムの実施 ↓ 事業検証、プログラムの一般化</p> <p>プログラム開発初期の調査段階で、当初計画の事業内容と法人の専門性や事業内容に一部乖離があることが分かったため、計画していた内容を実施できなかった。 今後は、法人に適した内容が開発できるよう目標の変更が必要。</p>			

事業の柱	B: 青少年を支える人材を育成する事業		公益目的	い: 講座、セミナー、育成
事業区分	B-I 青少年を支える人材を育てるための講座・研修		事業区分	
事業名	子ども・若者エンパワーメントセミナー			
日時/回数	3/13(水) 15時30分~18時	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	青少年施設スタッフ、地域で青少年に関わる大人	参加者	54人	
事業目的	・思春期の子をもつ親や自立支援に関心のある市民が、子どもたちの抱えている悩みや課題へ正しい知識を持ち理解を深める。 ・青少年問題への当事者意識を育む。 ・子どもたちと向き合い成長を見守ることができる地域の発展につなげる。			
実施内容	主に思春期の子もたちが抱えている悩みや課題について正しい知識と理解を持ち、適切に子どもたちと向き合い成長を見守ることができるよう啓発するため、子ども・若者に関わっている支援者へのエンパワーメント※をキーワードにセミナーを実施した。 ※エンパワーメント 本来持っている力を発揮し、自己決定力を持てるよう働きかけること。 実施: 3/13(水) 15時30分~18時 対象: 青少年施設スタッフや地域で青少年に関わっている大人 (交流センターで行なった地域活動拠点連絡会の研修としても実施) 参加者: 54人 【事前準備】 ・事業構成の決定(12月) ・映画手配、講師依頼の手続き(2月中旬) ・事業周知(2月下旬) 【当日】 ・「若者に向き合う」をテーマに、ドキュメント映画『月あかりの下で』を上映。上映終了後、参加者による感想・意見を発表してもらうことで、思いや気づきの共有を図った。 ・交流センタースタッフ、元スタッフ、青少年委員、寄り添い施設関係者、青少年地域活動拠点関係者、NPOスタッフ、学習支援ボランティア、教育機関関係者、よこはまユース職員、学校関係者が参加した。 映像資料: (株)グループ現代社			

事業の柱	C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業		公益目的	う: 体験活動等
事業区分	C-I すべての青少年を育むための多様な体験事業		事業区分	
事業名	地域団体と連携した取り組み(自然・社会体験プログラム)			
日時/回数	通年	場所	横浜市内	
対象	横浜市内に在住、在学の子も・青少年	参加者	3,614人(事業参加者総数)	
事業目的	・青少年のコミュニケーション能力の向上を図る。 ・社会性・人間性の形成を図る。 ・体験活動を推進するための自然環境や社会資源を活用する。			
実施内容	自然・社会体験を通じて青少年のコミュニケーション能力の向上と社会性・人間性の形成を図るため、自然環境や社会資源を活用した体験プログラムを地域の団体と協働で実施した。 参加総数/3,614人 ●市民団体と連携した青少年向け自然社会体験イベント ・ボーイスカウト横浜市連合会共催事業 ①11/18(日)日本丸メモリアルパーク『野外で遊ぼう!スカウトパーク』1,195人 内容: 各種体験ゲームと『ギネス世界記録(ロープ結びで長さ)』に挑戦 ②11/25(日)戸部公園『だれでも外遊び』520人 内容: 身体能力を育むゲーム、野外生活体験など ③2/24(日)横浜市消防訓練センター『はまっこ風の子ラリー』316人 内容: 訓練センターの広い敷地を活用したソフトディスクゴルフ、牛乳パックブーメラン、簡易凧あげなどの外遊び ・横浜市子ども会連絡協議会共催事業 ①1/20(日)本町小学校『ドリームキッズアドベンチャー』118人 内容: 5人1組で協力し合い数々の種目をクリアしていく集団ゲーム ②2/23(土)青少年育成センター『読み聞かせリレーション』65人 内容: 午前 パネルシアター、紙芝居・絵本の読み聞かせ会 午後 読み聞かせ指導者養成講座 ●社会資源等を活用した体験プログラムの実施 ①3/9(土)金沢動物園わくわく広場『野遊びパーク2013』1,400人 内容: 動物園という社会資源を活用した自然遊びやポイントラリー、クラフト、感覚を育む体験あそびなどのプログラム 連携: ボーイスカウト横浜市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協議会、横浜海洋少年団、横浜市健民少年団、横浜市子ども会連絡協議会、全国子ども会連合会、神奈川県子ども会連絡協議会、野島自然観察探見隊、(公財)横浜市緑の協会(横浜国立金沢動物園)、よこはまの青少年の体験活動に関する懇話会			

事業名		YSFH青少年サイエンスプログラム(自然・社会体験プログラム)	
日時/回数	6月、10月、11月、12月、1月、2月、3月/7回	場所	横浜市野島研修センター、横浜サイエンスフロンティア高校 他
対象	小中学生	参加者	280人(7回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然環境や自然科学への興味関心を高める。 ・グループ活動や異年齢の交流を通してコミュニケーション能力を高める。 ・高校生がこれまでの学習を参加者にフィードバックすることで、高校生自らの学びを深める。 		
実施内容	横浜サイエンスフロンティア高校と協働で、小中学生を対象とした科学体験事業を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ①6/24(日)野島海岸の自然観察(39人) ※高校生10人 野島の干潟で生き物調査・採集、研修センター内で生態調査、調査結果の発表会 ②10/14(日)鶴見川自然観察とダックレース(138人) ※高校生13人 鶴見川流域の清掃活動、ダックレース、貝殻浜での自然観察、ダックレース順位発表 ③11/18(日)神奈川の博物館を訪ねよう!(28人) ※高校生13人 生命の星・地球博物館の見学、石垣山フィールドワーク ④12/26(水)筑波宇宙センターを訪ねよう!(28人) ※高校生10人 筑波JAXA宇宙センター、地質標本館、サイエンスセンターの見学 ⑤1/27(日)体験!化石の教室(37人) ※高校生15人 化石レプリカ作成と古生物についてのお話&クイズ大会 ⑥2/24(日)天文教室(26組52人) ※高校生20人 プラネタリウムの鑑賞、天文のお話、星座早見盤づくり、天体望遠鏡による天体観測(親子プログラム) ⑦3/17(日)プログラミングロボット教室(20人) ※高校生15人 レゴロボット組立、プログラミング、ロボットレース大会 <p>【連携】 横浜サイエンスフロンティア高校、野島青少年研修センター、早川丸(地元漁師)、(株)JTB法人東京、鶴見区役所、東京ガス環境エネルギー館、JFEエンジニアリング株式会社</p>	
事業名		高校生水源林ボランティア(自然・社会体験プログラム)	
日時/回数	7/27(金)	場所	山梨県道志村の横浜市水源林
対象	市内在住・在学の高中生	参加者	38人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で活動する充実感と自然環境への理解を深めながら、ボランティア活動への興味につなげる。 ・スタッフや仲間との出会い、そしてボランティア活動を通じ、社会性を育む。 		
実施内容	山梨県道志村の横浜市水源林で高校生を対象とした間伐ボランティア体験を実施した。	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市水道局との企画内容の調整 ・市内の高校へ参加者募集 ・ボランティア事前研修(7/11(水)18時~19時) <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ボランティアの引率 ・活動内容(環境学習教室→間伐体験) ・活動の記録、報告 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動アンケートの実施(水道局兼用) <p>【連携】 横浜市水道局(浄水部浄水課)</p>	
事業名		新規体験プログラムの開発(研修センター連携事業)	
日時/回数	9月~12月	場所	野島青少年研修センターとセンター周辺
対象	野島青少年研修センター利用者	開発数	4企画
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・野島青少年研修センター及び周辺の自然環境を活用したプログラムを開発する。 ・グループでの挑戦や問題解決など思考能力、想像力を発揮する体験プログラムを開発する。 ・仲間や自分自身と向き合い成長していけるプログラムを開発する。 		
実施内容	野島青少年研修センター及び周辺の自然環境を活用したプログラムを開発し試行した。	<ul style="list-style-type: none"> ①海洋プログラム開発 → イカダ作り体験(3月SST事業で実施) ②室内体験プログラム開発 → カブラチャレンジを企画 ③自然環境学習プログラム開発 → 化石探検プログラムを企画 ④グループワークプログラム開発 → コミュニケーションワークを企画 <p>【連携】 横浜サイエンスフロンティア高校</p>	

事業名 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営			
日時/回数	11月開設(毎週月～金の10時～19時)	場所	西区「かもん未来塾」(西区中央一丁目)
対象	困難を抱える小中学生	登録数	11人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象に、「気づき・やる気・希望」を引き出す。 ・他者との関係性を築きながら自らが安心して居られる場(居場所)を提供する。 ・地域や専門機関との連携し子どもを見守る地域の環境を築く。 		
実施内容	困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業を西区役所から受託し実施した。 (学習支援、生活支援、総合支援)	7月:西区が「西区困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業」の委託について発表。 参加意向申請書を提出(7/20(金)) 西区から参加資格確認結果通知書到着(7/31(火)) 8月:提案書提出(8/7(火)) 西区から適格通知(8/21(火)) 9月:受託に伴う委託金見積提出(9/5(水)) 10月:業務委託契約の締結(10/1(月)) 借家決定、スタッフ募集、施設名考案、利用者選考など、開設に向けた準備 11月:かもん未来塾オープン(11/1(木)) ①学習支援:宿題・課題など日々の学習支援や補習 ②生活支援:手洗い・うがい、片付けなど生活の基本行動の支援から始め、個々の成長に合わせて支援 ③総合支援:上記支援や施設での生活を通じたスタッフや他の塾生とのコミュニケーションの深まりによって社会性の発達を促す 【連携】 西区役所福祉保健センター(保護課、こども家庭障害支援課)	
事業名 早期支援SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)プログラム			
日時/回数	3/26(火)・27(水)1泊2日	場所	野島青少年研修センター及び周辺施設
対象	市内の寄り添い型支援事業参加者 小中学生	参加者	8人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を持ち、他人を思いやるなど豊かな人間性を育む。 ・集団生活や集団行動による、社会のルールや自ら考え行動する力を身に付ける。 ・自立や自我の確立に向けて成長する機会を提供する。 		
実施内容	宿泊体験・生活訓練・社会見学プログラムを、市内の寄り添い型支援事業に参加している小中学生を対象に実施した。	【実施内容】 ・仲間づくりゲーム ・マリン体験(イカダづくり体験、磯遊び 他) ・夕食作り(野島カレー) ・ナイトハイク ・入浴(入浴指導あり) ・洗濯 ・館内掃除、身辺整理 ・お弁当作り(おにぎり、唐揚げ) ・八景島シーパラダイス 水族館見学 ・公共マナー体験(切符の購入、電車の乗車ほか) 【連携】 NPO法人あしほ(鶴見区寄り添い型支援事業「つるみ元気塾ほっとりんく」運営団体)	
事業名 よこはま東部ユースプラザ等新規公募事業への応募			
日時/回数	随時	場所	横浜市内
対象	主に自立支援関連の事業	応募数	3事業
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援事業を新規開拓する。 ・自立支援事業へ法人のノウハウやネットワークを活用する。 		
実施内容	各区で展開する困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業や方面別に設置される「よこはまユースプラザ事業」の受託を目指した。	①西区困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業(7月～8月) ②鶴見区困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業(9月～10月) ③よこはま東部ユースプラザ(10月～12月) 結果は、西区の事業だけが選定され、他は残念ではあったが、職員の意識変容に繋がった。	

平成24年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告書

事業課

事業の柱	C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	公益目的	う: 体験活動等
事業区分	C-II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業	事業区分	
事業名	放課後キッズクラブの運営		
日時/回数	通年/19か所	場所	横浜市内小学校内
対象	小学生	利用者	282,421人(19か所延数)
事業目的	通いながっている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。		
実施内容	<p>【放課後キッズクラブ事業】</p> <p>19か所の放課後キッズクラブで、在籍児童の53.6%(19校の平均値)が登録。 年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,239人、総計282,421人が利用し、実施したプログラム数は、毎月1キッズ平均約22.5回、年間総計5,140回、延べ108,219人が参加した。</p> <p>【会議、スタッフ研修等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議会(運営を客観的に評価・検証するとともに、地域への理解と協力を図ることを目的に、キッズ毎に年2回開催) ・保護者会(運営に保護者の意見を反映するとともに、保護者への理解と協力を促すことを目的に、キッズ毎に開催) ・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施 		

【各放課後キッズクラブの状況】(区名50音順)

区名	学校名(小学校)	在籍人数	登録人数	延べ参加児童数	プログラム実施数	プログラム参加人数	主なプログラム
青葉区	すすき野	508	219	9,324	284	4,774	バドミントン/ドッジボール/トスペース/キッズ菜園/キッズシアター/ハンドベル/スナックDAY/工作/手芸/はたおりクラブ/科学あそび/オンリーワン/人形劇を観にこう など
旭区	笹野台	617	327	15,049	399	7,372	スポーツチャンバラ/ソフトテニス/ドッジボール/手芸/ハンドベル教室/アイロンビーズ/工作/ミサンガ作り/フラワーアレンジ/お話し会/スナックデー/映画を見に行こう など
磯子区	岡村	369	229	12,620	233	3,880	ドッジボール同好会/グランドゴルフ/地域探検/お料理クラブ/科学教室/中国語/ミニ水族館/藍染め/手芸/ボンボンマスコット/工作/誕生日会 など
神奈川区	浦島	404	210	12,403	302	5,616	ドッジボール/卓球/3B体操/スポーツ教室/水遊び/キッズキッチン/かめのこシネマ/手芸/工作/お話し会/エンジョイイングリッシュ/キッズキッチン/コルピンと遊ぼう など
金沢区	能見台	554	316	16,751	312	4,935	ドッジボールクラブ/サッカー教室/スポーツチャンバラ/フラワーアレンジメント/アロマ教室/お話し会/紙芝居/昔あそび/トーンチャイム/ドローイングサロン/チャレンジデー など
金沢区	瀬ヶ崎	476	261	12,438	196	3,032	ドッジボール/囲碁クラブ/瀬ヶ崎探検隊/シカケ屋/ビーズのアトリエ/おいしい研究室/体感温度-3℃作戦/クラフトウィーク/ランチ!ランチ!ランチ! など
港南区	港南台第三	315	184	10,767	265	5,354	ドッジボール/遊びつくすぞプレイパーク/工作/手芸/日本語マスター/スイーツ教室/わくわくパン工場/大根を植えよう/もちつき/キッズバザール/お泊り会/科学教室 など
港北区	日吉南	766	377	14,705	206	4,598	ドッジボール/キッズバスケット/キッズ工房/親子工作/おやつビデオデー/作って食べよう/流しそーめん/どろんこ遊び/キッズバスデー/プラバン/ビンゴ大会 など
栄区	桜井	330	212	13,023	198	3,947	サッカー/バスケットボール/囲碁/将棋/キッズキッチン/ミュージックベル/トーンチャイム/バドミントン/工作/ペンシルパルーン/世界の言葉/紙芝居/茶道教室 など
瀬谷区	南瀬谷	897	281	12,804	221	5,696	バドミントン/ドッジボール/手芸/オセロ/壁画/巨大めいろを作ろう/読み聞かせ/藍染め/親子でバームクーヘン/キッズクッキング/キッズわくわく緑日/ランチデー など
都筑区	折本	738	344	13,798	188	3,334	将棋/ドッジボール/大縄/スケートに行こう/編み物教室/年賀状づくり/野球/茶道/剣玉検定/カラフル昆虫図鑑/デコ工作/誕生日会/天体観測 など
鶴見区	寺尾	702	350	18,395	261	7,723	スポーツチャンバラ/ドッジボールクラブ/トスペース/フラダンス教室/茶道教室/キッズ探検/工作/手芸/切り絵/キッズ屋台/お話し会/キャンプ/ヨットに乘ろう など
戸塚区	秋葉	622	384	18,362	557	11,721	ドッジボール/バドミントン/スポーツチャンバラ/フラダンス/ウクレレ/絵画教室/切り紙/キャンプ/工作/クロスステッチ/ショップデー/野山山遠足/畑をつくらう など
戸塚区	名瀬	566	304	15,078	211	6,043	ドッジボール/キッズ写真館/キッズ劇場/キッズ工房/茶道/おやつ工房/手芸/マイフォトフレーム/わくわくブース/キッズ緑日/囲碁教室/大切な人へ など
中区	本町	645	362	21,782	257	6,317	ドッジボールクラブ/ダブルダッチ講習会/水彩画/クッキング/クワガタ研究会/手芸/グラスキャンドル/アロマ/紙芝居/お話し会/書道教室/キッズシネマ/キッズ夏祭り など
西区	宮谷	963	450	16,467	202	4,765	ドッジボール/縄跳び遊び/生け花/水墨画/スカッドボーイ講習会/ペットボトルロケット/手芸/読み聞かせ/キッズ緑日/レッツさわやかスポーツ/三ツ沢もちつき など
保土ヶ谷区	権太坂	617	322	18,122	296	6,234	ドッジボール部/昔あそび道場/キッズ農園クラブ/ゴソ太探検隊/ゴソトンシネマ/工作/手芸/親子陶芸教室/わくわくチャレンジ/キッズ音楽クラブ/ハンドベル/おかし隊 など
緑区	長津田	616	340	16,912	309	7,890	バドミントン/ドッジボール/卓球/ミサンガ教室/手芸/エコ工作/プラバン/絵本ライブ/キッズキッチン/おやつデー/グリーンカーテンプロジェクト/いきいきキッズスポーツ など
南区	太田	301	211	13,621	243	4,988	エネルギー&エコ教室/バドミントン/ドッジボールクラブ/風船パレー/昆虫教室/工作教室/手芸/おやつ工房/誕生日会/すいか割り/ハロウィンパーティー/もちつき など
計		11,006	5,683	282,421	5,140	108,219	

平成24年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告書

事業課

事業の柱	D:その他法人目的達成のための事業		公益目的	
事業区分	寄附金募集事業・事務局運営・収益事業		事業区分	
事業名	法人ホームページの改良・管理			
日時/回数	通年			
対象	市民	7ヶ所	206,431件(トップページアクセス数)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人よこはまユースをPRする。 ・管理運営施設等についての情報を発信する。 ・情報提供による主催事業の参加者の増加を図る。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・HPサーバーの安定運用 ・情報の更新および追加 ・発信する情報等の検証と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ日常管理(情報更新・メンテナンス等) ・ホームページ改善(レイアウト修正、項目追加等) ・ソーシャル・ネットワーク・サービス(Facebook等のコミュニティ型ウェブサイト)導入の検討 		
事業名	第52回 爆笑! 濱っ子寄席(収益事業)			
日時/回数	12/5(水)18時~21時	場所	関内ホール 大ホール	
対象	市民	参加者	730人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人事業について市民・企業・連携団体等に協力、理解を促す。 ・寄附金を募集する。 			
実施内容	<p>青少年育成事業実施の原資(寄附金)の募集を目的として、伝統芸能である落語を通して、日頃ボランティア活動や青少年育成活動に関わる機会のない人にも楽しみながら青少年育成を支援する機会として寄席を実施した。</p> <p>実施にあたり、実行委員会を設置して企画・運営を行った。</p> <p>【爆笑! 濱っ子寄席実行委員会】 委員12人</p> <p>【入場料】 S席:3,000円 A席:2,500円</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の開催、出演者調整、広報など実施までの運営事務 ・協賛広告、観客の募集と調整 ・実行委員会(5回)開催 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄席演芸 ・募金活動(仲入り、終演後に実施)※募金額:96,077円 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告(決算含む)と実行委員会による反省会実施 <p>【出演】</p> <p>古今亭八朝、古今亭志ん馬、三遊亭歌之介、古今亭文菊、 すず風にやん子・金魚、三遊亭小遊三、古今亭志ん陽、さこみちよ、 柳家権太楼(出演順)</p>		
事業名	年報「YOKOHAMA EYE 'S」の発行			
日時/回数	未着手			
対象	市民			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・主に法人が実施した事業や青少年育成に関する法人職員の論考を年報として発行することによって、法人の取組みとその専門性を外部にPRする。また、活動団体や活動者の寄稿を通じて、地域の青少年育成の取組みも併せて伝える。 ・年報の編集発行を通して、職員自身が事業を見直す機会とし、資質向上に繋げる。 			
実施内容	<p>【当初計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集方針、体裁等の決定 ・掲載事業等内容決定、執筆依頼 ・編集、校正、発行 ・計画に基づき関係各所に配布 	<p>H24年度は取組めなかった。H25年度は、早い時期に経営会議でテーマを検討し着手する。</p>		

平成24年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告書

総務課

事業の柱	D:その他法人目的達成のための事業		公益目的	
事業区分	寄附金募集事業・事務局運営・収益事業		事業区分	
事業名	法人活動情報紙「よこはまユースレター」発行			
日時/回数	季刊発行(3回)			
対象	継続寄附者、事業協力者、施設来館者等	部数	各回1,500部発行	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の活動をカラー写真やオリジナル取材記事でPRする。 ・法人活動に関心・理解を持っていただき、寄附金募集効果を高める。 ・寄附金等の活用実績および報告を行う。 			
実施内容	法人活動を紹介する情報紙の発行。取材、制作、編集は法人内で行い、印刷のみ外部に業務委託する。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人事業、指定管理施設事業等法人運営に関する活動を、カラー写真やオリジナル取材記事によって知らせる情報紙を作成し、継続寄附者、事業協力者、各施設来館者等に配布した。 ・通常の活動の他、寄附金等の活用実績および報告も行いPRする。 ・発行回数は、年4回(季刊)とし、体裁及び発行部数はA4版、カラー両面印刷、各回1,500部発行。(但し、今年度は3回発行) 		
事業名	平成25年 新春のつどい			
日時/回数	1/31(木)18時30分~20時30分		場所	ホテル横浜ガーデン
対象	旧賛助会員及び寄附金・事業協力者、関係者	参加者	66人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法人を支えていただいている皆様への謝意を表す。 ・新たな事業展開等、法人活動をアピールし理解を求める。 ・法人を支えていただいている皆様、法人職員相互の交流・親睦・情報交換を図る。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝状の贈呈 ・事業報告 ・賀詞交換、交流・親睦・情報交換 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附者、事業協力者、招待者をピックアップ。 ・つどいの企画案作成、会場と調整。 ・案内状送付、出席者の把握。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永年寄附者、事業協力者等に感謝状を贈呈。 ・一年間の法人の取組みをプロジェクター投影により可視的に紹介。 ・立食式パーティーで、賀詞交換、寄附者・関係者・職員間の親睦・情報交換。 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユースレター、HP等で実施状況の報告並びに感謝の意を表すとともに、引続き継続的な支援を促した。 		
事業名	寄附金募集			
日時/回数	通年			
対象	市民			
事業目的	・当法人の取組みを広く周知し、理解を深め協力を得る			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金継続協力者を賛助会員制度に位置づけるための検討・準備 ・特定寄附金の募集(野島クリスマスキャンプ、ハートフルスペース宿泊体験、早期支援SSTプログラムの三事業に対する寄附金募集) ・募金箱の設置 	<p>賛助会費や特定寄附の実施に取組んだが、法人移行後の旧賛助会員離れの影響が大きい。今後は、寄附金広報事業に積極的に取り組む必要がある。</p>		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	あ: 施設の貸与
事業区分	A-I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出		事業区分	
事業名	諸室及び物品の貸出			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	青少年、指導者・育成者、市民	件数	4,498件	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体が安心して研修・会議を運営できるよう、施設の利用環境を整える。 ・着ぐるみなどの備品を整備し、貸し出すことにより、地域の青少年活動を支援する。 ・印刷作業の場や機材を利用しやすくすることで、活動団体の事務所機能を支援する。 ・出来る限り団体の要望に応えることで、活動を支援する。 			
実施内容	青少年育成活動団体の活動を支援するための会議の場(研修室等)や活動物品の貸出、及び資料印刷等事務局機能の支援。(プリントルーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修室等の貸出 ・着ぐるみの貸出やプリントルームの運営 ・利用者が安心して活動できるように、日中の火災発生と夜間の震災発生を想定し、それぞれ5月・9月・3月に利用者を交えた防災訓練を実施。訓練での意見に基づく災害時用備品や避難経路図を整備するとともに、7月にスタッフを対象としたAED講習会を実施した。 ・利便性の向上を図るとともに利用者の要望にも応えるため、電子メールでの利用申請やスタジオ空き状況のHPへの掲載などのサービスを5月から開始し、利用手続きの電子化に取り組んだ。 	※利用件数: 4,498件(前年度4,272件) 稼働率: 66.4%(前年度65.2%)	
事業名	赤ちゃんとのふれあい体験(利用促進事業)			
日時/回数	8/22(水)13時~15時	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	高校生世代の青少年	参加者	7人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・育成センター近隣の学校に通う青少年の利用促進を図る。 ・より多くの市民に青少年への理解を広げるため、青少年向けの体験事業を通じて、利用団体との関係づくりを図る。 ・赤ちゃんとのふれあいを通じて高校生に命の大切さを感じてもらう。 			
実施内容	子育て支援団体の協力のもと、青少年が実際に赤ちゃんを抱っこしたりあやしたりする体験を提供した。	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんの成長について ・赤ちゃんとのふれあう際の注意点について 	【実技】 <ul style="list-style-type: none"> ・抱っこ体験、ベビーマッサージ(オイルを使わないマッサージ)体験 ・質問タイム、振り返り 	
事業名	1日オープンデー(利用促進事業)			
日時/回数	11/3日(土・祝)9時~16時45分	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	市民	参加者	49人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・育成センターを利用した事がない人にも施設を知り来所する機会を作る。 ・来所者に各部屋の利用方法を提案し、利用促進を図る。 ・貸出物品等(着ぐるみ、プリントルーム)をPRし、利用促進を図る。 			
実施内容	「関内ホール1日オープンデー」及び「馬車道まつり」に合わせ、育成センターを無料で開放し、施設見学を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・関内ホール1階入り口付近で、育成センターのパンフレットを配布 ・地下2階スペースの研修室やスタジオ等の施設見学 ・見学者に利用手続きの方法や各部屋の利用方法を案内 ・市内の市民利用施設に実施チラシを送付し、当日来館できない人にも施設をPR 		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	え: 相談、助言
事業区分	A-II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート		事業区分	
事業名	ホームページ等を使った情報提供			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	青少年活動に既に関わる方やこれから関わろうとする人			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年や青少年を取り巻く環境に対する関心を喚起する。 ・有効な情報を手軽に入手できるように情報を整理する。 ・施設や情報スポットの利用促進を図る。 			
実施内容	<p>ホームページ等を通じて情報を発信し、間接的に活動を支援するとともに、情報・相談機能の認知度を高める。</p>	<p>・7月: ホームページのリニューアル</p> <p>①「講座・研修」情報 センター主催講座等の情報を提供し、事業の告知とともに、センターがどのような施設であるかを周知した。</p> <p>②「情報スポット」 助成金や他施設の講座・研修情報、時事情報の提供。青少年活動者に対しては、活動の更なる充実と自身のステップアップを図ること、青少年活動に関わっていない人には、青少年に関心をもってもらうことを目標に情報を精査し提供した。</p> <p>③「スタッフブログ」 センターのPRとともに、市民の青少年活動に対する関心が高まることを目指し、青少年に関わるコラムや育成センターでの出来事などを紹介した。</p> <p>・情報スポット 掲示板やチラシラックを使って、講座・研修、ボランティア募集等の情報を掲示・配架。掲示・配架に際しては、探しやすく見やすいようにカテゴリー毎に分類。また、情報をデータベース化し、質問や相談を受けたスタッフが誰でも対応できる態勢を整えた。</p>		
事業名	青少年育成に関する相談			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	青少年活動者・市民・青少年	件数	69件	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の青少年育成活動等に関する問合せや相談の窓口として、また、自立支援等のケースによっては専門機関へつなげる一次窓口として開設する。 ・「解決」することが目的ではなく、「一緒に考える」ことを事業方針とし、誰もがいつでも同じように対応できるよう、スタッフ育成のための研修を強化する。 			
実施内容	<p>・相談・情報スポット窓口の開設(電話・メール・窓口)</p> <p>・スタッフ研修の実施(相談事例検討、コミュニケーション力の向上) 窓口業務にあたるコーディネーターを対象に研修を実施。 【研修講師】 育成センター職員</p>	<p>①相談窓口の開設(通年) 【相談受付の考え方＝スタッフ研修で共有する目的】 「解決」することが目的ではなく、「一緒に考える」ことを事業方針とする。</p> <p>②相談受付の記録化(ケース検討、ニーズ・課題等の把握)</p> <p>③受付資料の整理(窓口情報や、問合せの多い情報のファイル一括化)</p> <p>④相談の方向性の整理(HPに情報スポットページを開設)</p> <p>⑤対応体制の強化(コーディネーター研修と担当制の実施、情報共有)</p> <p>・月1回のコーディネーター会議でのケース検討、情報共有(どのように相談を受けたか)</p> <p>・研修の実施(年2回)</p> <p>【8月】 相談機能の目的確認と共有、過去の相談事例(内容が異なる3件)をもとにしたロールプレイ(相談者役・コーディネーター役)、振り返り</p> <p>【2月】 雑談等を通じた相談しやすい雰囲気づくりの向上(コミュニケーションゲームによるスキルの向上)、振り返り</p> <p>・研修/助成金/社会的情報(時事、統計等)の情報収集をコーディネーターが分野毎に担当し実施</p>		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	え: 相談、助言
事業区分	A-Ⅲ 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート		事業区分	
事業名	よこはまの青少年の体験活動に関する懇話会			
日時/回数	①6/29(金)19時～20時30分 ②10/18(木)18時30分～20時 ③2/19(火)19時～20時30分	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	青少年活動団体、市民活動団体、行政	参加者	12団体	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成に関わる団体間のゆるやかな交流・連携を図る。 ・青少年団体同士の協働事業の取組みを支援する。 			
実施内容	<p>参加団体相互の活動プログラムへの参加・見学とその後の意見交換会を実施。団体間の相互理解と各活動プログラムの充実や連携を図った。</p> <p>【協働・連携】 ボーイスカウト横浜市連合会／ガールスカウト横浜市連絡協議会／横浜市健民少年団／横浜海洋少年団／横浜市子ども会連絡協議会／海をつくる会／横浜子どもと自然ネットワーク／市立金沢動物園／環境創造局公園緑地部動物園課／環境創造局政策調整部政策課／教育委員会事務局／こども青少年局青少年育成課</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組みと進め方の決定 ・各団体の体験事業への参加・見学 ①8月18日(土)「野島海岸の海浜清掃」(主催:海をつくる会) ②9月15日(土)「講座『配慮が必要な子どもたちの理解と対応』」(主催:ガールスカウト横浜市連合会) ③9月22日(土)実施「エコ森教室『外来生物ってなあ～に?』」(主催:市立金沢動物園) <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験事業の参加報告と意見交換、各団体から情報提供 ・各団体の体験事業への参加・見学 ④11月18日(日)実施「野外で遊ぼう! 横浜スカウトパーク」 ⑤11月23日(金・祝)実施「ボーイスカウト講習会」(④、⑤主催:ボーイスカウト横浜市連合会) <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験事業の参加報告と意見交換、各団体から情報提供、次年度の進め方について 		

事業の柱	B: 青少年を支える人材を育成する事業		公益目的	い: 講座、セミナー、育成
事業区分	B-I 青少年を支える人材を育てるための講座・研修		事業区分	
事業名	スキルアップ講座 (1)「発達障がい理解」			
日時/回数	7/10(火)9時30分～12時30分	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	放課後児童施設、社会教育施設など青少年が集う場のスタッフ	参加者	39人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子どもたちとの関わりの中で障がい児をどのように支援したらよいかについて理解を深める。 ・他施設での事例を学び合うことで、対応の幅を広げる。 ・他施設での課題や対応を共有する機会として、他施設のスタッフとの交流を行う。 			
実施内容	<p>発達障がい児と同年代の子どもと関わり合いの中で育つために、スタッフはどのような働きかけをしたらよいかについて座学やグループワークを通じて学んだ。</p> <p>【講師】 冢田 三枝子氏(横浜市教育委員会事務局指導部特別支援教育課主任指導主事)</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者から、講師に聞きたい質問事項をあらかじめ回収 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義①「発達障がいの理解(子どもが経験している困難と子どもへの対応)」 ・講義②「子ども同士が関わり合いの中で育つためにスタッフができる働きかけについて」 ・グループワーク①指導員役、子ども役に分かれて場面指導のロールプレイ ・グループワーク②それぞれが経験した対応の難しい事例について検討や意見交換 ・質疑応答 <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容をHPで発信 		
事業名	スキルアップ講座 (2)日赤救急法講習会			
日時/回数	①7/22(日) ②8/26(日) ③9/16(日)～23(日)8日間 ①②③いずれも10時～16時30分	場所	横浜市青少年育成センター	
対象	市内在住・在学・在勤の青少年育成活動者、活動に興味関心のある人(高校生以上)	参加者	39人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応についての知識や技術を習得する。 ・学んだ知識や技術を認定することにより、活動への自信や指導者としての自覚を育てる。 			
実施内容	<p>活動時に怪我や病気が発生した場合の応急的な救護方法を身につける。</p> <p>【共催】 ボーイスカウト横浜みなと地区協議会</p>	<p>①【救急法基礎講習会】 心肺蘇生法/AEDを用いた除細動/気道異物除去/止血法/包帯法など(講義と実技)</p> <p>②【救急員資格継続講習会】 各講習の復習/改訂のあった学科・実技の伝達など</p> <p>③【救急法救急員養成講習会】 心肺蘇生法/AEDを用いた除細動/けがの手当て(止血法、包帯法、固定法)/骨折の手当て/搬送法など(講義と実技)</p>		

事業名 スキルアップ講座 (3)「食から読み解く思春期の心」			
日時/回数	9/7(金)10時~12時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後児童育成に携わるスタッフ、子ども会やPTAの指導者・育成者など青少年の食育に関心のある方	参加者	16人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・食の視点から青少年の気持ちや思いを理解する。 ・青少年の食生活の現状を知る。 ・青少年の食生活の現状に即した支援方法を学ぶことで、今後の食生活の改善に繋げる。 		
実施内容	「食」の視点から青少年の理解を図る。 【講師】 森政 淳子氏(鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科教授)	【講義】 ①思春期の子どもの生活(思春期とは/生活習慣の変化と変化に伴う問題/大人の生活習慣/身体観とダイエット行動) ②食事風景画から読み取れる子どもの思い ③子どもが自分でも作れる一工夫レシピの紹介 ※当日は、放課後キッズクラブ指導員、青少年育成団体スタッフ、学生などが参加した。	
事業名 スキルアップ講座 (4)講座「デジカメ写真入門講座」			
日時/回数	6/19(火)9時30分~12時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年に関わる活動や団体・施設スタッフ	参加者	41人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や記録における効果的な写真について理解する。 ・デジタルカメラの特性を理解し、広報や記録のための効果的な使用方法を学ぶ。 ・活動に役立つ実践的な実習機会を提供する。 		
実施内容	青少年活動に理解を示す地域づくりを目指すために、全ての人に分かりやすく効果的な広報活動を行うことが求められている。 本講座は、活動内容を効果的に伝える記録写真の撮り方や見せ方などを、デジタルカメラの特性と合わせて学ぶことで、活動の充実を目指す。 【講師】 大向 哲夫氏(写真家・よこはまユース理事)	【当日の流れ】 ①講義(デジカメの特徴を理解する/撮影の基本を学ぶ/広報や記録に効果的な写真の撮り方等) ②フィールドワーク(馬車道に出て、座学で学んだ技法で撮影する) ③実習(写真処理の仕方、構図の確認・評価) ※当日は、自治体職員、市民利用施設職員、子育て支援拠点職員、NPOや青少年活動団体の活動者などが参加した。 【その他】 ・各自カメラ持参(フィールドワークで活用する)	
事業名 スキルアップ講座 (5)「子どもの力を引き出すコーチング入門」			
日時/回数	10/24(水)19時~21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成活動に関わっている人や関心のある人、およびコーチングに関心のある人	参加者	27人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年とより良いコミュニケーションを図るための技術を身につける。 ・青少年育成に携わっていない方の、青少年への関心を高める。 		
実施内容	日頃の活動の中で、子どもたちに寄り添いながら成長を支援できるよう、コーチングの手法を学ぶ講座を実施した。 【講師】 川本 正秀氏(共育コーチング研究会代表)	【当日】 コーチングについての講義及びグループワークによる実習	
事業名 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修 (1)導入講義			
日時/回数	9/20(木)18時30分~20時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	30人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する大人が青少年への関わりや考え方について『実践事例』から学び、居場所づくりの考え方を広げる 		
実施内容	「青少年の居場所づくり」に造詣の深い研究者を講師に迎え、今後のテーマ研修等の考え方・実践事例等について理解を深める。また、グループワークを取り入れ、参加者が自らの受講動機を表明し、他の参加者と共有することで、自身の学びのポイントを探る。 【講師】 萩原 建次郎氏(駒澤大学教授)	【当日の内容】 ・講義:「青少年に関わる大人の役割」とは(全7回の導入講義) ・グループワーク:(受講動機の表明、課題の意識化・共有) ・グループ発表 ・まとめ ・オリエンテーション (次回以降の「テーマ研修」「実践見学」で学ぶポイントや視点を確認)	

事業名 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修 (2)実践講座「わたしの役割」			
日時/回数	9/27(木)18時30分～20時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	21人
事業目的	・参加者が自らのキャリアや立場等から青少年に関わる「自分の役割」を確認し、組織等におけるスタッフの差異を認め補い合いながら各々が役割を発揮することが、居場所づくりには必要であることを確認する。		
実施内容	<p>自分の役割を考え確認するために、ゲストスピーカーからの実践報告や質疑応答、グループワークを実施した。</p> <p>テーマ研修は、お茶を飲みながら少人数のアットホームな雰囲気で行った。</p> <p>【ゲストスピーカー】 桜井 久美子氏(神大寺地区センター) 宮地 由紀氏(つづきMYプラザ)</p> <p>・意見交換 立場(常勤/非常勤)、キャリア(新人、ベテラン)の異なるゲストスピーカーの活動報告や質疑応答から「それぞれの立場における役割分担」を探った。</p> <p>・グループワーク「青少年に関わる“わたしの役割”を考える」 個人ワーク(用紙に、①自分のキャリア・立場(自己認識)②現在の活動において、わたしが力を発揮できること。担う役割を記入)⇒グループで共有 ※参加者の属性が多様であったため、様々な“役割”が発表された。</p> <p>・発表、まとめ 【グループワークの目的】 考えを他者に伝え、ぼんやりとした思いを自身の中で整理することで、研修効果をめ、自身へのフィードバックを深めた。</p>		
事業名 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修 (3)実践講座「地域施設と思春期の子どもたち」			
日時/回数	10/17(水)18時30分～20時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	20人
事業目的	・青少年育成における地域施設の課題を知る。 ・青少年育成における地域施設およびスタッフの役割を理解する。		
実施内容	<p>「青少年の居場所」として、青少年を受け入れている先行事例から、地域施設が、「青少年が利用しづらい」要因を考え、そこから浮かび上がる課題を理解し、「地域で青少年を支える」うえでの施設・スタッフの役割を考えた。</p> <p>【講師】 大久保 箇子氏(大島中学校コミュニティハウス館長)</p> <p>・活動紹介「大島中学校コミュニティハウスでの青少年の受け入れ」(スライドと講義)</p> <p>・質疑応答</p> <p>・グループワーク テーマ:『地域施設における“大人の役割”とは何か』 なぜ、大人が中心の地域施設は青少年が利用しない(しにくい)のか? どうしたら、青少年への関わりへの意識が共有できるか? 意識共有を無理なく行うための留意点は何か?</p> <p>・発表、まとめ</p>		
事業名 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修 (4)実践講座「困難な状況にある青少年へのアプローチ」			
日時/回数	10/31(水)18時30分～20時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	19人
事業目的	・青少年を取り巻く困難とその背景を理解する。 ・困難な状況にある青少年たちにとっての“地域の大人の役割”を考える。		
実施内容	<p>経済状況や家庭環境・国籍等でのマイノリティーなど、困難な状況にある青少年たちに対し、地域の大人がそれぞれの関わり(活動や施設等)の中でどのような役割を担っていくのか。「居場所づくり」という考え方と、「ことぶき青少年広場」の事例から考えた。</p> <p>【講師】 石井 淳一氏(ことぶき青少年広場)</p> <p>【事例報告】「ことぶき青少年広場」の事例から ・寿町の現在 ・ことぶきの子どもたち(背景や様子など) ・ことぶき学童保育での活動から「青少年広場」へ ・青少年への関わり方(スタンス等) ・まとめ 【質疑応答/意見交換】</p>		
事業名 「青少年に関わる大人の役割」人材養成研修 (5)振り返り講義			
日時/回数	11/15(木)18時30分～20時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	23人
事業目的	・連続講座のまとめとして、「青少年にかかわる大人の役割」とは何か考え、他者と共有する。		
実施内容	<p>・一連の講座の中から、キーワードを抽出し、講師によるまとめ。(本講座から見える“青少年に関わる大人の役割”の視点)</p> <p>・各自が印象に残ったキーワードから、『大人の役割』とは何かを考えた。(個人ワーク)</p> <p>・他者との共有(グループワーク)</p> <p>【講師】 萩原 建次郎氏(駒澤大学教授)</p> <p>【講義】「青少年にかかわる大人の役割」について考える ・講座で出たキーワードをふりかえる ・注目の視点のまとめ ・グループワークの視点</p> <p>【ワーク】「青少年にかかわる大人の役割」とは? ○個人ワーク:講座の中で印象に残ったこと、大切だと思ったこと/私が考える「青少年に関わる大人の役割」 ○グループワーク:個人ワークの発表、グループで共有/グループワークの内容を全体に発表、全体で共有</p>		

事業名		シンポジウム「子ども・若者を支える地域を目指して」	
日時/回数	12/15(土)14時～17時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年支援に関心にある市民	参加者	63人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で開催されている「地域で子どもたちを支える」活動および活動者を紹介する。(知る) ・子ども・若者を支える地域活動における「学校の役割」を考えるきっかけをつくる。(探る) ・次年度の情報スポットやアウトリーチ支援のあり方(市内の活動調査と一覧作成等)につなげる試みとする。 		
実施内容	<p>(1)活動報告 (2)意見交換(パネルディスカッション) 【パネリスト】 嶋原 とも子氏(つつじが丘小学校 地域交流イベント実行委員長) 松岡 美子氏(十日市場中学校 地域交流事業実行委員) 山口 まき子氏(権太坂小学校 放課後キッズクラブ主任指導員) 【コーディネーター】 久田 邦明氏(神奈川大学講師)</p> <p>第1部 ・活動報告 「地域で子ども・若者を支えること ～学校と連携した活動～」</p> <p>第2部 ・パネルディスカッション 「身近な大人が支える子ども・若者たち ～学校と連携した地域活動のこれから～」</p> <p>・会場との意見交換 ・参加者意見の発表 『私が子どもの頃にお世話になった大人』 『“地域”と聞いてイメージするもの』</p>		
事業名		高校生世代を対象としたキャリア観の醸成(潜在的リスクを抱える層へのアプローチ)	
日時/回数	12/27(木)14時30分～17時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	15～18歳(高校生世代)の青少年	参加者	8人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな背景を持つ同世代、社会人らと“職業観”“将来観”について考えることにより、青少年が生き方や社会とのつながりを考える機会とする。 ・高校中退者など、社会参加の機会を失いがちなリスクを抱える層や、将来を考える機会が乏しく、属性(学校)を離れた途端孤立してしまうリスクを抱える層に対し、早い段階から「社会とのつながり」や「生き方」について考える機会や、相談できる環境(周囲に相談をしていいというメッセージ発信)を整えることによってリスク軽減につなげる機会とする。 ・社会経験の豊富な地域人材を活用したプログラム開発の機会とする。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材研修(若者に向き合う大人) ・高校生世代とシニア世代の意見交換 テーマ:話そう・聞き出そう・聴きあおう・語り合おう「はたらくこと・将来のこと」 ・高校生世代が、他者の話を聴き、自分自身のイメージを探り、表明をしていくことで「将来」「生き方」について考える機会を提供した ・大人は高校生の意見や感想等に、自分自身の経験を話した(指導者という立場でなく人生の先輩という立場でのアドバイス) 【連携】青少年交流センター 【協働】NPO法人ピアサポートネットしずや 【地域人材紹介】山城経営研究所 <p>①地域人材研修:居場所型施設から見える、現在の高校生世代の進路についての考え方(阿久津センター長)</p> <p>②意見交換 ・出会いのワーク「将来のイメージ」【対面の場づくりとイメージづくり】 高校生世代:「×年後の自分は何をしている？」 シニア世代:「若いころ抱いていた“将来像”」 ・「はたらく」について考える(意見交換、話を聴きあう) キーワード:思い浮かぶ不安 「仕事がつまらなかつたらどうしよう?」「仕事に就ける?」「出世できるかな?」等が高校生世代からあがった。 シニア世代からは、その時どうしたか?という経験談や準備しておいたほうが良いこと、考え方などの話しをした。</p> <p>③振り返り(感想/まとめ) ・「はたらくうえで、大切だと思うこと・大切にしていきたいこと」 高校生世代が紙に書いて発表し、シニア世代が感想等を発表した。</p>		
事業名		ユースワーカーマネジメント研修(青少年に関わる包括的人材の育成)	
日時/回数	1/18(金)、2/1(金)、2/8(金) (全3回) いずれも9時30分～12時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設スタッフ等	参加者	28人(延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年関係団体の中堅的立場にあるスタッフが、組織や団体運営を学ぶことで、これからの青少年支援のあり方を考える機会とする。 ・育成センターの“センター(拠点)機能”のひとつとして、従来の講座・研修スタイル(専門的スキル、入門、啓発)だけでなく、包括的に「団体を支える人材」を養成していくことを視野に入れた研修スタイルの試行的事業とする。 		
実施内容	<p>中堅あるいはマネージャ的役割を担う職員を対象に、ユースワーカー組織における職員論/組織論/人材育成といった、組織運営および現場で求められる実践スキルを学ぶ連続講座を実施した。</p> <p>【講師】 杉野 聖子氏(江戸川大学総合福祉専門学校専任講師、元 京都市ユースサービス協会ユースワーカー)</p> <p>【第1回】中堅ユースワーカーに求められる役割 「わたしたちの仕事、立場を理解する」 ユースワーカーという仕事/中堅ユースワーカーの役割/ユースワーカーである自分 他</p> <p>【第2回】中堅ユースワーカーに求められる役割 「次世代ワーカーの育成・指導」 若い職員の立場を思い出す/次世代ワーカーの指導・育成/次世代ワーカーを指導する側の準備 他</p> <p>【第3回】中堅ユースワーカーに求められる役割 「ユースワーク実践スキルのレベルアップ」 ユースワーカーの基礎技術とは何か/記録のとり方と指導</p>		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	あ: 施設の貸与
事業区分	A-I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出		事業区分	
事業名	諸室の貸出・受付			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	青少年、指導者・育成者、市民	件数	4,422件	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に関する情報を広く提供し、多くの青少年及び団体に活動の場を提供する。 ・利用者が安心して活動できるよう、施設的环境を整える。 ・できる限り利用者の要望に応えることで、活動を支援する。 			
実施内容	青少年が気軽に集まり、仲間との時間を過ごすことのできる場の提供、団体に対する活動場所の提供、利用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・会議・研修室等の貸出 ・施設の安全、衛生環境管理 ・予約管理 ・利用報告書による利用者の声の聴取(アンケート) ・スタッフを対象とした防災訓練(避難誘導、AED、消火訓練 他) ・ピアノ調律 ・防災設備の点検 ・突発的な故障への対応(修繕等) 		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	え: 相談、助言
事業区分	A-II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート		事業区分	
事業名	ロビーワークによる日常的な相談・助言			
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	青少年(小学生～青年期)	件数	116件(相談件数)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフがフリースペースの青少年達とコミュニケーションを図り、青少年の課題を早期発見し課題解決を図る。必要に応じ関係機関と連携する。 ・青少年の社会性や協調性を涵養するために、相談・コーディネートを通じて、ボランティア活動や自然体験などの体験活動機会を提供する。 			
実施内容	スタッフが来館した青少年と日常的な会話を通じ築いた関係性により、青少年の成長を応援する環境を充実した。 電話やメールによる、ボランティア活動や体験活動の相談・助言を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが、フリースペースの青少年達と積極的に日常的な関わりを持ち、青少年の潜在的リスクを発掘し、適切な支援へと結びつけた。 ・青少年を体験活動(ボランティア活動など)につなげるため、相談・コーディネートを行った。 ・月1回実施するコーディネーター会議において、具体的なケースについて話し合いや情報交換を行いスタッフのスキルアップを図った。 		

事業名	青少年地域活動拠点連絡会の運営			
日時/回数	3/13(水)9時30分～12時30分	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	横浜市内の青少年地域活動拠点	参加	6か所	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点相互の連絡、情報交換の場を提供することで、青少年地域活動拠点がより充実し多くの青少年の成長の支えとなり、地域の理解が広がることを目指す。 ・連絡、情報交換を通じ、各拠点の課題やノウハウの共有を図る。 			
実施内容	横浜市内の青少年地域活動拠点の運営を支援するため運営スタッフが一堂に会す機会を提供した。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会の開催(年1回) ドキュメント映画「月あかりの下で」の上映及び情報交換。 		

事業名	10周年記念式典及び交流会			
日時/回数	3/24(日)15時～17時30分	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	施設利用者・関係者・ボランティア等	参加者	49人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・センターでの居場所づくりに対する10年間の取り組みを振り返り、外部に発信する。 ・現代を生きる青少年にとっての居場所の必要性を、外部に発信する。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典において、現代を生きる青少年を取り巻く現状や、居場所の必要性についての講演を実施した。 ・記念誌の発行及び10年の活動を記録したスライドを上映することで、センターの足跡を発信した。 ・青少年・ボランティア・利用者・関係者等による交流会を通じ、センターが多くの人に支えられてきたことを共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典 <ol style="list-style-type: none"> ①指定管理者挨拶(三田代表理事) ②祝辞:横浜海洋少年団団長 関勝則氏 横浜市青少年育成協会前理事長 川本守彦氏 ③記念講演 講師:駒澤大学教授 萩原建次郎氏 テーマ「居場所の変遷と居場所の働き」 ④記念誌の披露(発行部数800部) ⑤10周年のスライド ・交流会(立食形式) 参加費:500円 ※式典について神奈川新聞で報道された。		

事業の柱	B: 青少年を支える人材を育成する事業		公益目的	い: 講座、セミナー、育成
事業区分	B-I 青少年を支える人材を育てるための講座・研修		事業区分	
事業名	「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2013			
日時/回数	2/16(土)14時~18時30分、17(日)9時30分~14時	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	青少年教育関係職員、青少年団体指導者、研究者(学生)、青少年活動に関心のある人	参加者	237人(延数)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の青少年が抱える課題や青少年を取り巻く環境について情報提供をし、青少年への理解を深める。 ・青少年の居場所づくりについて、意見交換をする機会を提供することで、青少年を支える人材を育成する。 ・横浜市で行っている青少年の居場所づくりや青少年育成活動を全国に発信する。 			
実施内容	青少年の居場所づくりをテーマにした、公開シンポジウムによる情報提供と分科会での意見交換 ○基調講演: 萩原 建次郎氏(駒澤大学教授) ○パネリスト 岩永 牧人氏(NPO法人ユースポート横浜理事長) 今田 麗氏(元当フォーラム実行委員長) ○分科会助言者 児美川 孝一郎氏(法政大学教授) 青砥 恭氏(NPO法人よこはまユースサポートネット代表理事) 西村 美東士氏(聖徳大学教授) 久田 邦明氏(神奈川大学講師) ○分科会協力団体: コガネックスラボ ○事例報告者 山口 宏之氏(既卒者カフェ) 宮原 直孝氏(一般社団法人いっばんじん連合)	【事前準備】 ・実行委員会による企画・準備(9月~2月の平日19時~22時 全13回) ※実行委員会は、社会教育主事、大学生、活動実践者等、10人程度で構成 【当日】 テーマ: 「青少年の居場所、その先へ」 1日目 公開シンポジウム (1)基調講演 (2)パネルディスカッション (3)交流会 2日目 分科会(第1~5分科会)、全体会 【事後振り返り等】 ・参加者アンケート記入、報告書作成、実行委員会振り返り(準備・当日運営について) 【主催】 日本都市青年会議、よこはまユース		
事業名	社会教育実習生受け入れ			
日時/回数	5月~11月	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	社会教育主事課程を学んでいる大学生	参加者	14人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年との活動を通じた交流や実習の場を提供することにより、青少年を支える人材を育成する。 ・異年齢間交流の場を提供し、考え方の広がりを図るとともに、他者を尊重する精神を培う。 ・実習プログラムを企画提供することで、職員の指導能力の向上を図る。 			
実施内容	社会教育主事課程を履修している学生の実習の場を提供した。 【受け入れ大学】 駒澤大学(11人) 立教大学(2人) 日本体育大学(1人)	【事前準備】 ・学校と実習生との事務連絡及び日程調整 ・実習プログラム作成 【当日】 ・実習日誌のコメント記入 ・ロビーワーク、受付及び事業運営補助等を実習 ・青少年や利用者への対応、事業実施、事務取扱等を職員が指導 【事後振り返り等】 ・実習後の振り返り(実習中に感じたことの共有や疑問点の解消)		
事業名	夏期青年ボランティア			
日時/回数	7/23(月)~8/25(土) 毎日13時~18時	場所	横浜市青少年交流センター	
対象	高校生~24歳まで	参加者	76人	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通じて青年の協調性や社会性を養成する。 ・異年齢間交流の場を提供する。 ・青年がボランティア活動を始めるきっかけを作る。 ・小・中学生に、年齢の近い青年ボランティアが活動をサポートすることで、小・中学生自身の成長を促す。 			
実施内容	センターのイベント補助や子どもとの関わりを通じて、青少年が成長する機会を提供することを目的に、夏休み期間に一人5日間程度のボランティア活動を行った。	【事前準備】 ・地域ボランティアエアポートを含む広報活動 ・事前説明会(7/10(火)18時~19時、14(土)13時~14時、18(水)18時~19時) ・事前研修会(7/22(日)14時~16時) 【当日】 ・夏休みイベント(木工教室・料理教室・工作教室等)の進行補助 ・フリースペースおよびレクリエーションホールにおける子どもたちの遊びや勉強のサポート、話し相手 ・ボランティア班ごと(1日2班)の活動振り返り 【事後振り返り等】 ・当日活動後のグループ単位での活動の振り返り ・事後研修会(8/26(日)14時~16時)		

平成24年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告書

青少年交流センター

事業の柱	C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	公益目的 事業区分	う: 体験活動等
事業区分	C-I すべての青少年を育むための多様な体験事業		
事業名	青少年委員会運営		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター 他
対象	横浜市在住または在学もしくは在勤の中学生から24歳まで	参加者	11人
事業目的	・青少年が青少年施設の運営に参画することで、施設の充実を図るとともに、様々な経験を通して青少年の成長を図る		
実施内容	・センターの運営に青少年の視点を取り入れるため、中学生から24歳までの青少年委員が利用者の意見聴取やイベントの企画・運営を行った。 ・委員会の活動を通して、主体性や責任感、協調性を養った。		
	① 定例会の開催: 11回 5/27、6/10、7/8、8/11(土)、9/16、10/14、11/11 12/9、1/13、2/10、3/10(8/11以外、日曜日16時30分～19時) ② 目安箱の設置 ③ 宿泊研修: 8月10日(金)～11日(土) 於: 野島青少年研修センター ④ イベントの実施: 4回 ⑤ 広報紙の発行(3月)		
事業名	青少年委員会企画事業(全4事業) (1)納涼きもだめし大会		
日時/回数	8/25(土)16時～18時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児～地域の大人	参加者	85人
事業目的	・センター周辺の子ども、保護者をはじめとする地域の人達に夏休みの楽しい思い出となる機会を提供する。 ・青少年委員と夏期青年ボランティア相互の交流の場を提供する。 ・青少年委員と夏期青年ボランティアが事業の企画・運営を担当することで自主性、協調性を養う。		
実施内容	・子どもたちの夏休みの最後の思い出に、交流センター全館を使ってお化け屋敷を作り、親子でも楽しめる“きもだめし”を実施した。 ・青少年委員が中心に企画し、夏期青年ボランティアと一緒に準備、当日の運営を行った。		
	【事前準備】 ・定例会で、きもだめしの企画 ・青少年委員を中心に夏期青年ボランティアと共同で必要物品の調達や、大道具・小道具等の制作 ・交流センターの利用者へ物品提供(自宅の不要品等)の呼びかけ 【当日】 ・青少年委員を中心に夏期青年ボランティアと共同で、館内の装飾、きもだめし大会の運営を行った。 【事後振り返り等】 ・青少年委員と夏期青年ボランティアが合同で振り返りを行い、参加した感想を共有 (色々な人と交流が出来たという意見が多かった。)		
事業名	青少年委員会企画事業(全4事業) (2)「ワイワイおやつタイム」		
日時/回数	4/8、5/13、6/10、7/7(土)、9/9、10/14 11/11、12/9、1/13、2/3、2/10、3/10 (全12回 7/7以外、日曜日14時～16時)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	公募の小学生(各回定員12人)	参加者	127人(12回延数)
事業目的	・子どもたちが自ら調理し、食べることを通じて「食」に対する関心を高める。 ・青少年委員が企画運営に携わることによって、自主的な活動の場を提供し成長を促す。 ・参加者(子どもたち)同士ならびに青少年委員の異年齢交流を図る。 ・参加者により近い立場の青少年委員がサポートすることによって、参加者の満足度や達成感を高める。		
実施内容	料理教室 ・おやつづくりを通して、参加者と青少年委員・ボランティアの異年齢交流を図った。 ・食育の観点をとりいれるとともに、季節にあった食材をとりいれたメニューを採用した。		
	【事前準備】 ・定例会で、メニューと担当者の決定 ・担当者と職員で試作 【当日】 ・材料の購入・調理器具の用意等 ・203号室にて参加者受付、自己紹介、グループ分け ・グループごとに料理室で、調理開始 ・職員は安全確認や必要物品補充のため巡視、助言 ・調理終了次第、203号室に移動し、全員で食事 ・食事終了後、後片付け ・アンケートの記入、レシピの配布 (時間が余った場合は、ビンゴゲームや感想の発表などを行った) 【事後振り返り等】 ・青少年委員と職員で振り返り ・定例会で、担当委員が報告し全員で共有		

事業名 青少年委員会企画事業(全4事業) (3)「ふりふらハロウィン」			
日時/回数	10/27(土)13時~15時30分 センター内 10/31(水)15時~16時30分 地域連携	場所	横浜市青少年交流センター 境之谷公園こどもログハウス/藤棚地区センター
対象	未就学児~中学生	参加者	115人(2回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・季節にちなんだ子ども向けの事業を実施し、楽しい思い出を作る。 ・青少年委員にリーダーとしての活動機会を、また、夏期青年ボランティア経験者等に継続的な活動の場を提供する。 		
実施内容	<p>・ハロウィンのイベントとして、10/27は交流センターで実施した。10/31は境之谷公園こどもログハウスと藤棚地区センターのイベントに、青少年委員やボランティアが出向き運営を手伝った。</p> <p>・相互のイベントをまとめたチラシを作成し、互いに広報を行う等の施設間の連携によって、地域の居場所づくりを推進した。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会で、イベントの企画・準備 ・連携施設と共同のハロウィンイベントチラシの作成、配布 <p>【10/27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1F:フェイスペイント、クラフト、綿菓子、菓子の配布 ・4F:スピードガン、ストラックアウト、わなげ、バルーンアート ・ボランティアと振り返り <p>【10/31】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年委員とボランティアが、子どもの仮装パレード(ログハウスから地区センターまで)の付き添いと、お楽しみ会の手伝いを行った。 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会で、振り返り 		
事業名 青少年委員会企画事業(全4事業) (4)「かどもっつい〜」			
日時/回数	12/22(土)10時~15時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児~地域の大人	参加者	168人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・季節にちなんだ子ども向けの事業を実施し、楽しい思い出を作る機会を提供する。 ・青少年委員、ボランティアの主体的な活動の場を提供する。 		
実施内容	<p>・子どもと保護者をはじめとする、地域の人達との季節にちなんだ楽しい事業として、餅つきとクラフトを実施した。</p> <p>・青少年委員とボランティアが事業を運営した。</p> <p>※食品を扱うため、衛生面に配慮した。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会で、事業の企画・役割分担 ・担当毎の打ち合わせ、事前準備、食材・材料の購入 ・ボランティアスタッフ募集 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスクラフト「折り紙ツリー」(10時~11時30分) 指導:青少年指導者クラブ ・餅つきと餅の配布(11時30分~13時30分) ・ミニ門松作り(13時~14時30分) 手伝い:青少年委員OBOG、元コーディネーター、センターボランティア経験者等 <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート記入 ・振り返り・共有(積極的に活動できたか、その理由は、参加者の様子など) 		
事業名 夏休み事業(全4事業) (1)工作教室(万華鏡づくり)			
日時/回数	7/26(木)14時~16時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生	参加者	15人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を提供し、活動を通じて青少年の成長を促す。 ・青年にボランティア活動の機会を提供することで、青年の成長を促す。 ・青年ボランティア、参加者との交流を図る。 		
実施内容	<p>・工作教室「万華鏡づくり」</p> <p>・小学生のサポートを夏期青年ボランティアが行った。</p> <p>【連携】</p> <p>青少年指導者クラブ</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年指導者クラブ(YSC)と打ち合わせ <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YSCと夏期青年ボランティアが参加者のサポート ・YSCと夏期青年ボランティアと振り返り→参加した感想を共有(YSCからはボランティアがよくみてくれて良かったという意見が出た。) 		
事業名 夏休み事業(全4事業) (2)料理教室(カップサンドイッチづくり)			
日時/回数	7/31(火)10時~13時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生	参加者	6人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を提供し、活動を通じて青少年の成長を促す。 ・青年にボランティア活動の機会を提供することで、青年の成長を促す。 ・青年ボランティア、参加者との交流を図る。 		
実施内容	<p>・料理教室「カップサンドイッチづくり」</p> <p>・交流センターの花壇で収穫した野菜を使って調理した。</p> <p>・小学生のサポートを夏期青年ボランティアが行った。</p> <p>・参加ボランティアとの打ち合わせ</p> <p>・調理実習</p> <p>交流センターの花壇で野菜の収穫/カップサンドイッチづくり/試食/参加者の振り返り、かたづけ</p> <p>・ボランティアとの振り返り(参加した感想を共有)</p>		

事業名 夏休み事業(全4事業) (3)木工教室(ハウス型トレジャーボックスづくり)			
日時/回数	8/3(金)10時~16時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学4年生~中学3年生	参加者	5人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を提供し、活動を通じて青少年の成長を促す。 ・青年にボランティア活動の機会を提供することで、青年の成長を促す。 ・青年ボランティア、参加者との交流を図る。 		
実施内容	交流センターのコーディネーターを講師として、夏期青年ボランティアと職員がサポート役として、小中学生向け木工教室を実施した。	【事前準備】 ・木材の加工(難易度の高い加工などは事前に行う) 【当日】 ・集合、自己紹介、グループ分け ・工作開始 ・昼食(参加者持参) ・組み立て終了後、塗装 【事後振り返り等】 ・当日の振り返り	
事業名 夏休み事業(全4事業) (4)スポーツ大会(綱引き)			
日時/回数	8/22(水)14時~16時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学校1年生~中学校3年生	参加者	10人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を提供し、活動を通じて青少年の成長を促す。 ・青年にボランティア活動の機会を提供することで、青年の成長を促す。 ・青年ボランティア、参加者との交流を図る。 		
実施内容	コーディネーターを審判とし、小学生から中学生までが参加できる綱引き大会を実施した。夏期青年ボランティアはサポート役として参加した。	【事前準備】 ・綱引き用の綱の準備 【当日】 ・レクホール集合、受付 ・ルール説明、安全説明 ・チーム分け、準備体操 ・リーグ戦にて優勝チームを決定 ・3位までに賞状を授与 (余った時間は「テーブルサッカー」大会を実施) 【事後振り返り等】 ・当日の振り返り	
事業名 @楽祭2012(夏・冬)			
日時/回数	6/24(日)13時~17時 12/2(日)11時30分~17時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	交流センターで活動する個人・団体	参加者	22組
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が日頃の成果を発表しあい、他の利用者との交流を楽しむ機会を提供する。 ・出演者・出展者が青少年ボランティアとの交流を通して、青少年への理解を深める機会を提供する。 ・青少年ボランティアが、年齢や地域を超えて多くの人との交流を楽しむ機会を提供する。 		
実施内容	世代を超えた利用者同士の交流を図ることで、相互の思いや価値観を学び、青少年の成長を促すことを目指し、ダンスや音楽演奏、芸能、美術展示など利用者の日頃の練習の成果を発表する機会を提供した。 ※今年度は夏と冬の2回開催した。 冬は交流センターの10周年にちなみ、これまでの利用者や出演者の協力を得て、美術展示や模擬店など新たなイベントを実施した	【当日】 第1回《夏》6/24(日)来場者:104人(ボランティア:10人) ・ステージ部門:ダンス、音楽演奏、演芸(参加団体:8団体48人) 第2回《冬》12/2(日)来場者:254人(ボランティア:46人) ・ステージ部門:ダンス、音楽演奏、演芸(参加団体:11団体112人) ・展示部門:ステンドグラス、映像(参加団体:2団体) ・その他のイベント:お点前披露/模擬店(綿あめ、ポップコーンなど) /楽器づくりワークショップ/イベント終了後10周年交流会 ※10周年記念交流会(参加者:71人)	

事業名 こどもの日まつり			
日時/回数	5/5(土・祝)13時~15時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児~市民	参加者	491人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する青少年(主に小中学生)に、年齢・地域を超えた人との交流を楽しむ機会を提供する。 ・活動を通して、青少年ボランティア(中学生以上)の協調性や自主性、責任感を育む。 ・地域の大人が「こどもの日まつり」へ参加することで、センターの活動や存在意義を理解する。 		
実施内容	<p>・こどもの日にちなみ、青少年が楽しめるお祭りを、青少年ボランティア中心の運営により実施した。</p> <p>・5月の連休中に開催し、多くの入場者が見込めたため、センターのPRも積極的に行った。</p> <p>(模擬店等のブースは実費)</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体及び地域団体へ協力依頼、ボランティアの募集 ・事前の周知(近隣の小中学校へのチラシの配布など) ・事前準備は職員、コーディネーターが担当 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは当日の準備と運営を担当 ・クラフト教室(カーネーションづくり、風車) ・模擬店(駄菓子、ポップコーン、綿菓子、フランクフルト、カレーライス) ・協力団体ブース(お茶室、バルーンアート、おもちゃ病院) ・スポーツ体験(スピードガン、早押しマシン、割り箸鉄砲、ディスクゴルフ) ・センター事業の紹介(パネル展示) <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア全体の振り返り(参加して感じたことを共有) 		
事業名 人形劇びっころ公演			
日時/回数	6/23(土)14時~15時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	未就学児~市民	参加者	114人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の感受性を育むとともに、社会的視野の広がりを目指し、人形劇鑑賞の機会を提供する。 ・青少年育成団体に活動の場を提供する。 		
実施内容	<p>・人形劇びっころによる人形劇</p> <p>【演目等】</p> <p>「三枚のお札」、「ハメハメハ大王」、パネルシアター、手遊びなど</p> <p>【共催】</p> <p>人形劇びっころ</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演目の内容、当日の必要物品等打ち合わせ ・新聞社へ広報の投げ込み、近隣の小学校に事業周知 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇鑑賞会を実施 		
事業名 ふらっとkids			
日時/回数	4/27、6/22、7/27、10/26、11/16、1/25 毎回金曜日10時30分~11時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	主に未就園児とその保護者	参加者	延べ92組(189人)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその保護者が音楽の楽しさを体感する。 ・子育て中の母親を支援する。(親子、そして参加者同士の交流) ・親子向け音楽活動を実施している団体が地域で力を発揮できるよう支援する。 		
実施内容	<p>交流センターの音楽演奏室で、歌やピアノ演奏、クラフトなど、親子で参加できるプログラムを主に未就園児とその親に提供した。</p> <p>【主催】</p> <p>おもちゃのはこ</p> <p>【共催】</p> <p>よこはまユース</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知、参加者の受付・管理 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏会、手遊び、クラフトなどを実施 ・プログラム、翌月のチラシの印刷、アンケート <p>主催団体「おもちゃのはこ」は西区の音楽家や音楽好きな主婦を中心に結成。「赤ちゃんから大人まで誰でも楽しめる音楽を提供すること」をモットーに、区内を中心にピアノ・歌・ヴァイオリンなどのコンサートを行っている。</p>		
事業名 ふらっとkidsコンサート			
日時/回数	5/25、9/28、12/21、2/22 毎回金曜日10時30分~11時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	主に未就園児とその保護者	参加者	延べ73組(155人)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとその保護者が音楽の楽しさを体感する。 ・子育て中の母親を支援する。(親子、そして参加者同士の交流) ・親子向け音楽活動を実施している団体が地域で力を発揮できるよう支援する。 		
実施内容	<p>歌やピアノ演奏を親子で聴くだけでなく参加・体験できる、主に未就園児とその親を対象としたコンサートを実施した。</p> <p>【主催】</p> <p>おもちゃのはこ</p> <p>【共催】</p> <p>よこはまユース</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知、参加者の受付・管理 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシック等の演奏会を実施 ・プログラム、翌月のチラシの印刷、アンケート 		

事業名 青少年ライブ12(夏・冬)			
日時/回数	8/19(日)、12/24(月・祝) 2回とも13時～17時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	中学生から24歳までの青少年バンド	参加者	15組(2回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に参加できる練習成果の発表場所を提供する。 ・演奏のレベルアップを図る。 ・青少年に学校・学年・グループを越えた交流の場を提供する。 ・青少年に責任感や自主性及び協調性を育むための活動機会を提供する。 		
実施内容	<p>・交流センターを利用している中学生から24歳までの青少年を対象に、普段の練習の成果を発表する場として、ライブを実施した。</p> <p>・事前説明会で、事前準備・当日の運営の役割分担を行い、参加者の主体的なライブ運営を図った。</p> <p>・専門家に技術面、講評などのサポートをお願いし、参加者の技術の向上を図った。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前説明会(7/15(日)、11/10(土)) ・音作り講習会(6/17(日)、11/18(日)) ・参加者・団体による企画・進行づくり、会場設営、準備(看板やポスター・チラシ作成) <p>【前日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場設営、リハーサル、ミーティング <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライブ演奏(夏)8団体(39人)+MUSACIから1団体、(冬)6団体(23人) ・来場者(夏)115人、(冬)82人 ・参加団体により受付・照明・PA操作・記録撮影を行った ・ライブ終了後の交流会(専門家による講評) 		
事業名 音作り講習会			
日時/回数	6/17(日)10時～17時 11/18(日)12時30分～19時10分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	中学生から24歳までの青少年	参加者	31人(2回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の基礎知識を習得することで、自信が付き、活動の幅をひろげるきっかけをつくる。 ・プロの音楽団体の社会貢献活動を支援する。 		
実施内容	<p>MUSACIによる、楽器の練習方法、演奏方法の指導。ドラム講習、ギター講習、ベース講習を行った。</p> <p>MUSACIは、高校生～23歳程度のバンドマン、専門学生等からなるイベント団体。バンドを始めて間もない若い層に機材の使い方を教える機会の提供を目的に、交流センターで「音作り講習会」を実施した。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携団体との打ち合わせ、企画運営のコーディネート <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/17 パートごと、練習・演奏方法の指導(各パート3人募集) <ul style="list-style-type: none"> ①ドラム講習 10時～11時、11時10分～12時10分 5人 ②ギター講習 12時30分～13時30分、13時40分～14時40分 7人 ③ベース講習 15時～16時、16時10分～17時10分 5人 ・11/18 バンドごと、練習・演奏方法の指導(各時間帯1バンド募集) <ul style="list-style-type: none"> ①12時30分～14時 ②14時10分～15時40分 ③16時～17時30分 ④17時40分～19時10分 (参加団体) <p>Quiver、Day Pack、GAKEGULU、Day dream、マカロニ、back-end</p> <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者各自アンケート記入 ・振り返り→講習に参加しての感想、よかったところ、改善点等 		
事業名 アートワークショップ(持込企画)			
日時/回数	8/5(日)、8/21(火) 2回とも12時30分～17時	場所	横浜市青少年交流センター、野毛山公園
対象	小学生	参加者	29人(2回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・アート活動を通して、子どもたちの感性や創造力を深める。 ・地域コミュニティでも活用できる生涯学習プログラムを創造し、地域での事業展開を図る。 ・青少年団体(美大生5人、教員1人、その他1人)による企画運営事業実施を支援する。 		
実施内容	<p>美大生を中心とした団体による子ども向けアートプログラムの実施を支援した。</p> <p>【共催】 子どもアートワークショップ実行委員会 2012年からスタートした団体。現役教員、教育学部生、美大生などの様々なジャンルのメンバーで構成され、子どもたち向けのワークショップの構想と実践を目的に活動している。</p> <p>8月5日(日)参加者14人 8月21日(火)参加者15人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野毛山動物園でフィールドワークを行い、オブジェ作りのインスピレーションを得る。 ・オブジェのイメージ・アイディアスケッチやオブジェを創作した。 ・完成したオブジェを子どもたちで鑑賞し、意見を共有した。 <p>【団体との振り返りから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような準備が必要か、実施するうえで何を考えておかないといけないかが、当日間際になるにつれ気づくことが多く、あらかじめこちらからもサポートできればよかった。 ・団体者の代表と職員で打ち合わせをし、それをもちかえって団体で打ち合わせをするのが、大変そうだった。 		

事業名 ふらっとカフェ			
日時/回数	12/25(火)、1/6(日)、1/19(土)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	12/25: 高大生、1/6: 高大生、1/19: 小中生	参加者	43人(3回延数)
事業目的	・利用する青少年が抱える課題や交流センターに求めるニーズを把握する。		
実施内容	<p>気軽な雰囲気の中で、共に食事をしたり、話をしたりすることによって、青少年が抱えている課題や、交流センターに求めるニーズを把握した。</p> <p>【12/25】受験生応援。(カウンター) 無料でコーヒーを配布した。大人の利用者も含め、13人が参加した。</p> <p>【1/6】鍋パーティー(和室) 高校生、大学生、浪人生が10人参加した。買い物も皆で行き、スタッフや大学生とともに鍋を食べ交流した。</p> <p>【1/19】ティーンズカフェ(カウンター) 普段カップラーメンばかりを食べている中学生を対象に、ピザトーストなどを販売。20食完売。</p> <p>※各回、イベント終了後にスタッフ間で振り返りを行い、青少年が抱える課題やニーズを共有した。</p>		
事業名 ふりふらジョブカフェ			
日時/回数	3/9(土)14時～16時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	高校生、大学生	参加者	4人
事業目的	<p>・青少年が将来の職業や仕事観について考える機会を提供する。</p> <p>・参加者同士、参加者と講師の交流を促し、様々な人の考えを知る機会を提供する。</p>		
実施内容	<p>社会人を講師に呼び、実際の仕事内容、仕事をしていくなかで必要だと思うスキル、就職活動に向けての心構えなどを、ざっくばらんな雰囲気の中で話してもらった。</p> <p>【講師】 山田 啓介氏(社団法人神奈川専門学校各種学校協会 キャリア教育サポーター)</p> <p>【事前準備】 ・講師との打ち合わせ(1月中) ・近隣大学へのチラシの送付、HPへの掲載 ・参加者の募集</p> <p>【当日の流れ】 ・アイスブレイキング ・講師から自己紹介を含め仕事内容等についての話を聞いた ・参加者からの質問タイム ・参加者、講師を交えて歓談 ・参加者、講師からの感想を共有 ・アンケート</p>		
事業名 卓球教室			
日時/回数	3/25(月)14時～16時30分	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生～中学生	参加者	23人 ボランティア15人
事業目的	<p>・青少年育成団体(大人)と青少年とが交流する機会を提供する。</p> <p>・青少年同士の交流の機会を提供する。</p> <p>・初めての青少年にも卓球体験機会を提供する。</p>		
実施内容	<p>・交流センター利用登録団体「わかば卓球クラブ」の協力を得て実施した。</p> <p>・講習・実習・演習を通じて、参加者が楽しみながら、スポーツとしての「卓球」の基礎を理解し、身に付けるプログラムを実施した。</p> <p>【協力】 わかば卓球クラブ</p> <p>【事前準備】 ・指導協力の「わかば卓球クラブ」と共同で企画・準備 ・広報チラシにより参加者を募集</p> <p>【当日】(予定) ・講習(15分): 競技概要やルール等、基礎知識の座学 ・実習(60分): フォームの確認や、ラケット・台・球を使った練習 ・演習(30分): 参加者でペアを作り、ラリーに挑戦 ・総括(15分): 一日の体験を振り返り、意見をまとめた</p> <p>【事後振り返り等】 ・協力団体との振り返りにより改善点を共有した。</p>		

事業名	学習マイプラン(ふりふら勉強会)		
日時/回数	7月～3月 毎週水曜日16時～18時/49回	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生～中学生	参加者	331人(49回延数)
事業目的	・経済的な理由等さまざまな事情によって学習に困難を抱えている子どもに対して学びの場を提供する。 ・家庭や学校では出会うことの少ない「大人」との出会いを通して、共に学び成長する機会を創出する。		
実施内容	経済的理由等により学習する時間や場所がなく、学校の勉強についていくのが難しい子どもや学習意欲の低下している子どものために、交流センターを会場として、ボランティアによる無料の学習支援を行った。		
	【事前準備】 ・ボランティア募集(市内および近郊の大学、地区センター等約100か所) ・参加者募集(交流センター周辺の小中学校7校) ・ボランティア向け事前説明会の実施 【当日の流れ】 ・当日は職員・チーフボランティア・ボランティアで勉強会(「ふりふら勉強会」)を実施 15:30 ボランティア集合、事前ミーティング(チーフボランティアを中心に) 16:00 参加者受付、勉強会開始。途中退出可。ボランティアと参加者、1対1ないし1対2での学習 17:50 学習を終了し、「振り返りシート」記入 18:00 勉強会終了。生徒退出。ボランティアは「振り返りシート」をもとに、振り返り ※夏休み期間(8月)は、午前の部(10時～12時)も実施した。 ※8/22(水)の午前の部は、ボランティアと参加者でカレーづくりを行った。(料理室) ※受験生応援キャンペーンを追加実施した。(8回) 1/12(土)、19(土)、26(土)、2/2(土)、9(土)、14(木)、15(金)18(月) 毎回14時30分～16時30分 ※ボランティアには研修を案内し参加を促した。 「青少年に関わる大人の役割講座 part2」2人参加 ※全体ミーティングを実施した。(2回) 1/10(木)、3/14(木) 毎回16時～18時		

事業の柱	A: 青少年活動を支援する事業		公益目的	あ: 施設の貸与
事業区分	A-I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出		事業区分	
事業名	施設・設備貸出事業			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター	
対象	団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民 20人以上)	件数	469団体	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体等が主体性、自立性を持って円滑に活動できるよう、宿泊室及び研修室の貸出を行う。 ・研修に必要な備品の貸出を行い、利用団体の研修を支援する。 			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・抽選会受付 ・電話受付 ・利用抽選会 ・事前打合せ会 ・プログラム相談 ・入所準備 ・宿泊室・研修室の貸出 ・備品の貸出 ・安全管理 ・利用者アンケート ・プロモーション 	利用の流れ 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・抽選会電話(利用日3ヶ月前) ・利用電話・直接受付等(利用日の2週間前まで) ・利用抽選会の開催(12回) ・事前打合せ会(1ヶ月前)プログラム・利用相談 【当日】 <ul style="list-style-type: none"> ・シーツの貸出、備品の貸出 ・宿泊室、研修室、浴室、厨房の準備 ・日帰り利用(研修室、和室、厨房の貸出) ・点検・清掃作業等、安全管理(定期巡回) 【事後振り返り等】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの実施 		
事業名	インターネットによる情報提供			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター	
対象	施設利用希望者			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用団体の獲得を図る ・リピート利用の促進を図る ・体験活動への動機づけを図る 			
実施内容	空室状況、利用方法案内、抽選案内、施設紹介、イベント・講座の参加者募集、事業案内等、研修センターの最新情報の発信を行ない、利用者の利便性向上を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ・空室状況随時更新 ・事業実施二ヶ月前ホームページに案内掲載 ・抽選会三週間前に、申込み方法等の実施案内掲載 ・抽選会当日、17:00までに空室状況更新 ・事業実施後、担当所感・写真掲載を含む活動レポート掲載。 		
事業の柱	C: 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業		公益目的	う: 体験活動等
事業区分	C-I すべての青少年を育むための多様な体験事業		事業区分	
事業名	オールクリーン野島ビーチ 2012			
日時/回数	6/16(土)、9/17(日)、11/10(土)、2/23(土) 計4回	場所	横浜市野島青少年研修センター 野島公園前浜	
対象	青少年～市民	参加者	181人(4回延数)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験・環境教育活動を通じて、青少年の豊かな心を育む機会を提供する。 ・様々な市民団体と協働し、それぞれ団体の特色ある活動を支援する。 			
実施内容	横浜市に唯一残る自然海岸「野島海岸」の海岸清掃や海の生き物観察を通じ、参加者に環境保護への興味やボランティア活動のきっかけを作った。また、貴重な自然環境の保護活動に取組む市民活動団体の活動を支援した。	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃 ・ゴミの分別と集計 ・生き物観察会 【共催】 オールクリーン野島ビーチ実行委員会 【講師】 海をつくる会 ※市農地保全課、資源循環局の協力により回収したゴミを処理		
事業名	野島カヌー体験教室(全25回)			
日時/回数	通年(毎月1～3回土曜日に実施)/25回	場所	横浜市野島研修センター、野島公園水路	
対象	小学生以上	参加者	368人(25回延数)	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験・環境教育活動を通じて、青少年の豊かな心を育む機会を提供する。 ・様々な市民団体と協働し、それぞれ団体の特色ある活動を支援する。 			
実施内容	カヌー体験を通じて野島海岸など自然環境と向き合い興味を高めた。講師の指導のもと、カヌーの正しい技術を習得し、自分自身の目標を定めて教室に参加し自己成長を目指した。 【協働】 金沢スポーツクラブ	【活動内容】 準備体操、陸上練習(パドル操縦)、カヌー操縦 <ul style="list-style-type: none"> ・安全対策としてライフジャケットを貸与 ・施設内浴室で着替え、シャワーを使用 ・カヌーの整備・管理(修繕、清掃等) 		

事業名 野島カヌー体験キャンプ(全4回)			
日時/回数	6/30(土)~7/1(日)、9/15(土)~16(日)、 9/29(土)~30(日)、10/20(土)~21(日)	場所	横浜市野島青少年研修センター 野島公園前浜
対象	小学3年生~6年生	参加者	81人(4回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に、自然と触れる体験機会を提供することで、青少年の自然に対する興味関心を高めるとともに、豊かな心を育む。 ・1泊2日のキャンプでの仲間との触れ合いを通じて、協調性や自主性を養う。 ・野島の自然環境を活かした研修センターのプログラムとしての検証を行う。 		
実施内容	<p>横浜に唯一残る自然の海浜でカヌー操縦体験、広い公園の中で野外炊事や火起こし体験、星空観察など、1泊2日の宿泊で、自然や初めて出会う仲間とのふれあいや協働体験を通じ、自主性と、協調の心を育んだ。</p> <p>カヌー講師：金沢スポーツクラブ 尾喜 純一氏 【協働】 金沢スポーツクラブ 横浜市緑の協会 野島公園管理事務所</p> <p>(1日目) ①カヌー体験・・・金沢スポーツクラブの指導員が乗り方指導 体験時間80分。10人1グループで実施 ②野外炊事体験・・・バーベキューで夕食(準備から片付けまで体験) ③火起こし体験・・・昔の火起こし道具を使って、火起こし体験 起こした火でキャンプファイヤーを実施 ④星空観察・・・季節の星座や、月を観察</p> <p>(2日目) ⑤第1回ロープワーク体験・・・ロープのいろいろな結び方を実践 第2回・第3回樹名板作り・・・緑の協会の樹木専門家が指導 野島公園内の樹木に取り付け 第4回フォトラリー・・・写真マップによるウォークラリー</p>		
事業名 バードウォッチング in 野島			
日時/回数	2/16(土)~17(日)1泊2日	場所	横浜市野島研修センター、野島公園、金沢動物園、長浜公園
対象	小・中学生	参加者	24人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然体験や環境教育を通じて、青少年の興味関心を高めるとともに、豊かな心を育む。 ・宿泊体験を通じて異年齢間の交流を図り、自立心を養う。 ・様々な市民団体と協働し、団体の特色ある活動を支援する。 		
実施内容	<p>研修センター周辺の地域資源を活かし、子どもたちの自然体験や、宿泊体験を通じた異年齢間の交流を行った。</p> <p>青年ボランティアの参加や地域の市民団体との協働を通じ、それぞれの活動の活性化を目指した。</p> <p>【協働】 バードウォッチングin野島実行委員会 【連携】 金沢動物園、野島公園、長浜公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢動物園の見学 園内を見学し、世界の鳥やその他の動物を観察した。 傷病舎で傷ついた鳥を実際に目にし、担当職員から動物たちが保護される経緯や、野生へ帰すまでの過程などの話を聞いた。 ・野島公園(2/16)、長浜公園(2/17)での野鳥観察 環境の異なる公園で、野鳥の関係、生態について話を聞いた。 正しい双眼鏡の使い方を学び、野鳥を観察し、図鑑やガイド役のスタッフに野鳥の名前を聞いて、観察手帳に記録をとった。 ・ネイチャーゲーム・クラフト ネイチャーゲーム：渡り鳥ゲーム(ゲームを通じて渡り鳥の生態を疑似体験) クラフト：ドリームキャッチャー作り、鳥のお面作り ・振り返り(感想発表) 		
事業名 野島ワークショップ クラフト(のじたま、のじぼっくり、バードコール)			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体	人数	953人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体の活動プログラムの空き時間や雨天時対策として、工作プログラムを提供する。 ・参加者同士で協力して仕上げることによる協働作業の楽しさを体感する。 ・利用時の雨天対策のための利便性の高いプログラムとして位置づけ、利用者満足度の向上を図る。 		
実施内容	<p>3種類の工作を自由に選択できる小中学生向け工作プログラム。</p> <p>晴天時のプログラムが雨で中止となった場合の予備プログラムとして利用されることが多く、利便性の高さがひとつのセールスポイント。</p> <p>①卵形の野島オリジナルキャラクター「のじたまくん」 ②松ぼっくりをベースにした鳥形キャラクター「のじぼっくり」 ③木とネジで鳥の鳴き声を出す「バードコール」</p> <p>・上記①~③の3種類を用意し、団体単位で自由に選択し、職員が作り方を指導(所要時間45分~1時間)</p>		
事業名 野島ワークショップ 野島カレー			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	宿泊利用団体(主に体験学習の児童生徒)	食数	2,843食
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自炊型宿泊施設の特徴を活かし、協働作業の楽しさを体験し協調性を身につける。 ・食・調理への興味関心を高める。 ・利用者サービスの向上を図る。(研修プログラムの提供) 		
実施内容	<p>職員の指導のもと、参加者がルーから作るカレー作りを協力して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前打合せと準備(アレルギーの有無、作業手順確認、食材手配他) ・当日(職員の指導により、グループで調理) 		

事業名 施設ボランティア養成			
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	18歳～30歳(高校生は対象外)	参加者	31人(延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・青年のボランティア活動への理解を深める。 ・研修センターでの多様な活動の場を提供する。 ・ボランティア活動を通して、青年の協調性や社会性を育む。 ・利用者の活動やセンター事業を補助し、円滑な運営を図る。 		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研修センターでボランティア活動を希望する青年のための説明会 ・個人面接の実施 ・体験学習利用者の活動補助 ・施設維持管理補助 ・センター主催事業の運営補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設ボランティア広報・受付、説明会の実施(5人参加) ・個人面接の実施。 ・野島プログラム体験研修(カレー作り、クラフト作成ほか) <ul style="list-style-type: none"> ①施設ボランティア活動 延べ5人(入所式補助や団体の活動補助) ②野島ワークショップボランティア 延べ7人(のじまカレー、クラフト) ③主催イベントボランティア 延べ19人(カヌー体験キャンプほか) ・活動後、職員による振り返りと活動記録の記入。 (職員のコメントを記入し次につながる活動の支援を行った。) ・ボランティアから活動中に気が付いた改善点を運営に生かした。 ・3月にボランティア交流会(振り返り会)を実施した。 	
事業名 ハートフルスペース宿泊体験			
日時/回数	11/29(木)～30(金)1泊2日	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	ハートフルスペースに通っている児童生徒	参加者	121人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通じて、ハートフルスペースに通う児童生徒の社会への興味関心を広げる。 ・多くの人と接することによって、自己を見つめ自信を回復する機会を提供するとともに、児童生徒間のコミュニケーションを図る。 ・活動を通じて、集団行動の基本を習得する。 		
実施内容	横浜市内3か所のハートフルスペースに通う児童生徒を対象とした1泊2日の体験事業を実施した。 【協賛】 横浜市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・餅つき、各種レクリエーション、ふれあいタイム、キャンドルファイヤー、クラフト等を実施 ※宿泊だけでなく、日帰りでの参加も可能とし、より多くの児童生徒の参加を促進させた 	
事業名 第17回野島クリスマスキャンプ			
日時/回数	12/8(土)～9(日)1泊2日	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	小中学校個別支援学級の児童生徒(小5以上)	参加者	35組(親子) ボランティア38人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・参加児童へ生活体験の場を提供する。 ・個の成長を図る。(自立力・協調性を高める) ・参加の児童生徒の保護者同士や、ボランティアと保護者の交流を図る。 ・ボランティアの育成を図る。 		
実施内容	横浜市内小中学校個別支援学級の児童・生徒(小5年生以上)のための宿泊キャンプ(親子で参加)を実施した。 【共催】 野島クリスマスキャンプ実行委員会(現・元教職員、大学生など) ※研修センターの役割 参加者、ボランティアの受付対応 事務局機能支援	<ul style="list-style-type: none"> ①11/7(水)、10(土)ボランティア事前研修(講師:冢田三枝子先生) 内容:障がい児の理解 他 ②11/18(日)ふれあいの会 内容:ボランティアと児童生徒・保護者の顔合わせ会 本キャンプまでの事前の情報交換等 ③12/8(土)～9(日)本キャンプ(1泊2日) 内容:ボランティアが児童生徒にマンツーマンで対応 キャンドルファイヤー(協力:鎌倉女子大学マンドリン部) 親子活動:陶芸体験(絵付け) 	
事業名 自立支援事業			
日時/回数	10/21(日)～22(月)1泊2日 12/10(月)	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	自立支援が必要な若者/中学校個別支援学級の生徒	参加者	26人(2回延数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・共同生活の場を提供し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・施設点検作業などの就労体験を通じ、自立を支援する。 		
実施内容	自立支援を必要とする若者たちの社会への足掛かりとなることを目指し、施設での就労体験や宿泊共同生活を行う場を提供した。 【連携】 ユースポート横濱 西柴中学校	<ul style="list-style-type: none"> 10/21(日)～22(月)ユースポート横濱宿泊体験会 <ul style="list-style-type: none"> ①調理プログラム:野島カレー、手打ちうどん ②ラジオ体操 ③作業体験:草刈り ④宿泊体験 12/10(月)西柴中学校個別支援学級 職業体験 <ul style="list-style-type: none"> ①作業体験:食器清掃点検、落ち葉はき 	

事業名	新規体験プログラムの開発		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	青少年～市民	参加者	787人(延数)
事業目的	・施設周辺の地域資源を活かした体験プログラムを開発する。 ・青少年が自ら学び育つことのできる体験プログラムを開発する。		
実施内容	施設の設備や地域資源を活用した体験活動の構築や、これまでにイベントや事業として実施してきた体験活動を、利用団体がプログラムとして活用できるよう検討し、利用団体に提供できる体験プログラムの充実を目指した。	①既存プログラムを検証し改善(随時) フォトラリーの更新、野島カリー係分けなどの修正、レシピカードの更新検討 ②もちつきを冬期プログラムとし、機材の整備、貸出 ③以下の体験プログラムを試行 ・ロープワーク 1回16人 ・プラネタリウム星空観察 4回延べ134人 ・フォトラリー 6回延べ526人 ・火おこし 5回延べ111人	